

香川県立ミュージアムを中核とした文化観光推進拠点計画
行きし・いにしへのよりどころー Openness 天才たちを生み出した日本一こんまい県

香 川 県

目 次

1. 実施体制	3
2. 事務の実施体制	5
3. 基本的な方針	
3-1. 現状分析	
3-1-1. 主要な文化資源	6
3-1-2. 来訪客の動向	13
3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較	18
3-2. 課題	20
3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性	21
3-4. 地域における文化観光の推進への貢献	23
3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出	23
4. 目標	25
5. 目標の達成状況の評価	31
6. 文化資源保存活用施設	
6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況	
6-1-1. 現状の取組	32
6-1-2. 本計画における取組	33
6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携	
6-2-1. 現状の取組	33
6-2-2. 本計画における取組	34
6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携	
6-3-1. 現状の取組	34
6-3-2. 本計画における取組	34
7. 文化観光拠点施設機能強化事業	
7-1. 事業の内容	
7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業	35
7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの 観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業	39
7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の 利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業	42
7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業	44
7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業	45
7-1-6. 7-1-1～7-1-5 の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業	46
7-2. 特別の措置に関する事項	48
7-3. 必要な資金の額及び調達方法	49
8. 計画期間	52

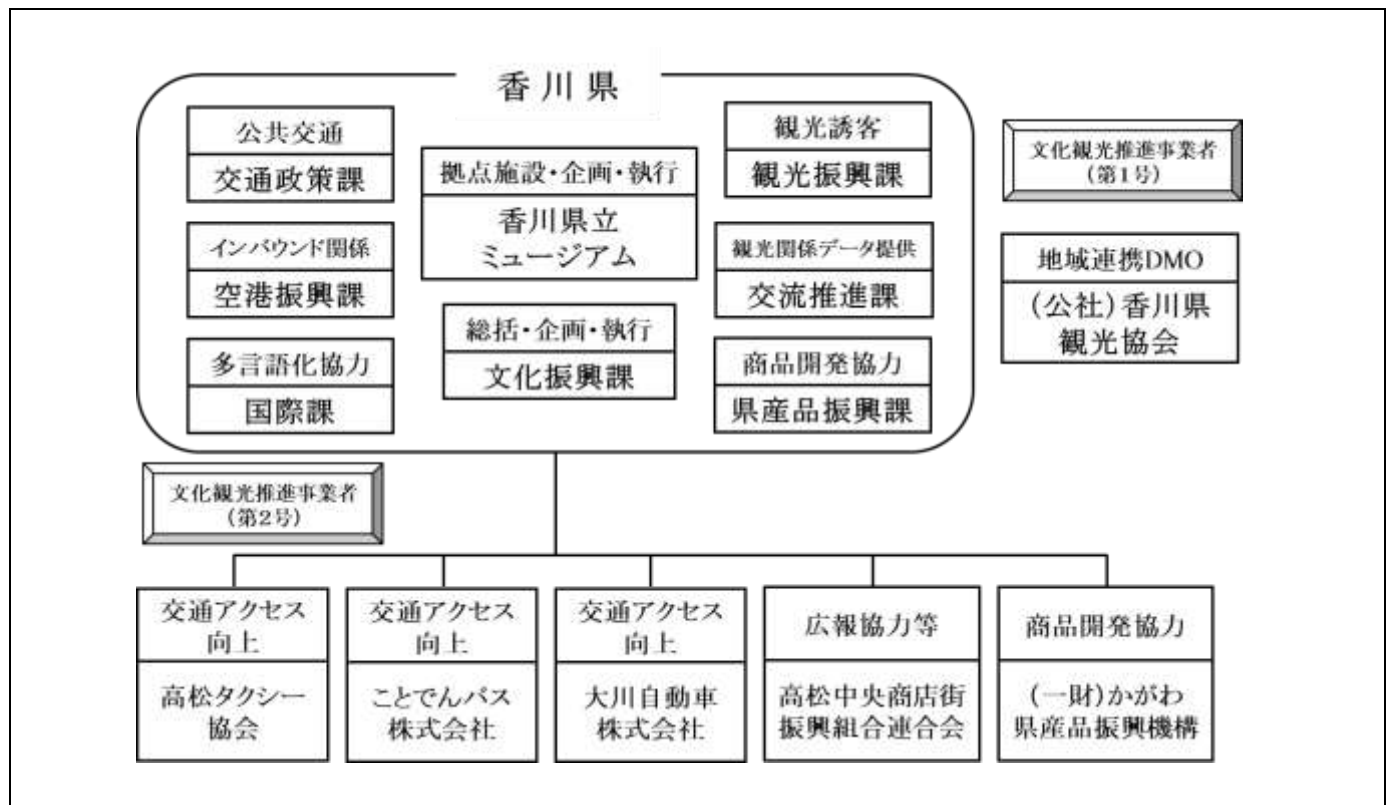
香川県立ミュージアムを中核とした文化観光推進拠点計画

1. 実施体制

文化資源保存 活用施設	名称	香川県立ミュージアム	所在地	香川県高松市玉藻町 5-5
申請者 文化資源保存活用 施設の設置者	名称	香川県	所在地	香川県高松市番町 4-1-10
	代表者	知事 池田 豊人		
	地方公共 団体内部 の役割	【主担当部署】 政策部文化芸術局文化振興課・香川県立ミュージアム（本拠点計画に関する事業） 【連携する部署】 交流推進部観光振興課（観光誘客）・交通政策課（公共交通）・空港振興課（インバウンド関係）・県産品振興課（商品開発協力）・交流推進課（観光関係データ提供）、総務部知事公室国際課（多言語化協力）		
共同申請者① 文化観光推進 事業者	名称	公益社団法人香川県 観光協会	所在地	香川県高松市番町 4-1-10
	代表者	会長 三矢 昌洋		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 1 号の文化観光推進事業者		
共同申請者② 文化観光推進 事業者	名称	高松タクシー協会	所在地	香川県高松市朝日町 5-4-27
	代表者	会長 川崎 武文		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		
共同申請者③ 文化観光推進 事業者	名称	ことでんバス株式会 社	所在地	香川県高松市朝日町 4-1-63
	代表者	代表取締役社長 石川 雅章		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		
共同申請者④ 文化観光推進 事業者	名称	大川自動車株式会社	所在地	香川県さぬき市長尾西 1061
	代表者	代表取締役 佐藤 邦明		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		

共同申請者⑤ 文化観光推進 事業者	名称	高松中央商店街振興 組合連合会	所在地	香川県高松市番町 2-2-2 高松商工会議所内
	代表者	理事長 古川 康造		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		
共同申請者⑥ 文化観光推進 事業者	名称	一般財団法人かがわ 県産品振興機構	所在地	香川県高松市番町 4-1-10
	代表者	理事長 小川 剛		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		

2. 事務の実施体制



3. 基本的な方針

3-1. 現状分析

3-1-1. 主要な文化資源

1 行きし・いにしのよりどころ—Openness 天才たちを生み出した日本—こんまい県

四国遍路の礎を築いた空海が登場した古代から、高松松平家の治世の下香川漆芸など独自の文化が生まれた近世、世界的に有名な芸術作品や建築が集まる現代に至るまで、瀬戸内海・香川県土という自然・地理条件の中で、人々が積み重ねてきた歴史において、多彩で重層的な文化芸術が生み出され、生活に溶け込みながら育まれて、各時代において、この地に関わる人々を引き付けてきた。この積み重ねはいわば多層構造の「螺旋」を描き、今なお、国際的に認知度と人気の高い瀬戸内国際芸術祭といった新たな文化芸術を生み出している。

(1) 「螺旋」の背景

① 香川県が持つ自然・地理条件は、この地における文化芸術の基盤となる不可欠な要素である。新渡戸稲造がその多島美を「世界の宝石」と表現した瀬戸内海は穏やかな内海であり、豊かな漁場であるとともに、海上交通の主要路となってきた。讃岐平野の水はけのよい扇状地と降雨量が少ない瀬戸内海式気候により塩田、醤油産業、小麦栽培が育まれた。瀬戸内海で取れるいりことあわせて、「うどん県」香川県のソウルフードである「さぬきうどん」は香川県の自然環境と歴史的経緯から生み出されたものと言える。

② 自然・地理条件がこの地における文化芸術の基盤であるならば、歴史は文化芸術を育んできた重要な要素である。

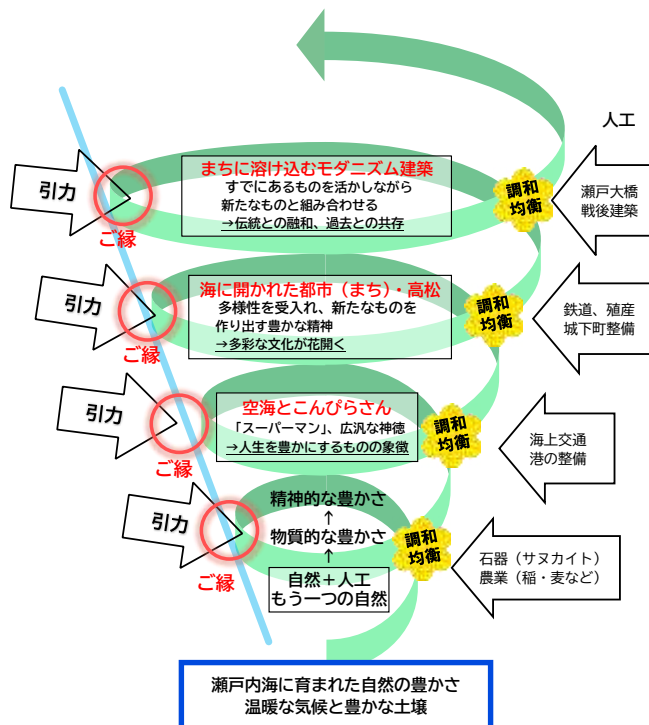
以下では、現在に見られる香川県独自の文化芸術の発展に特に多大な影響を与えたと考えられる時代を3つ挙げる。

【古代】

- 海上交通の主要路であり、国防の要でもあった讃岐国は、都とのほどよい距離と相まって、日本史上の重要な出来事や節目に登場し、時の要人との関わりも大きかった。讃岐国出身で、真言宗開祖である弘法大師^{空海}は、平安初期の能書家として名高い三筆の1人であるとともに、築池別当として満濃池の修築にあたるなど、文化芸術、天文学、工学などで多才な活躍を見せ、万能の天才と称されている。

【近世】

- 江戸時代において、高松藩の初代藩主となった松平頼重（徳川家康の孫）は、上下水道敷設など^{城下町}整備を行った。西廻り航路の一部として讃岐海運が発達し、「天下の台所」大阪に近いという地理的關係もあり、産業も発展した。また、人流増により多様な文化の交流が盛んとなったことに加え、歴代藩主が積極的に進めた産業奨励策により、数々の名工、名匠が育成され、精巧な職人技は芸術に昇華し、文化的風土が培われた。中でも、三代の藩主に仕えた玉楮象谷（たまかくじょうこく）は、当時主流の蒔絵でなく、「蒟醬（きんま）」「存清（ぞんせい）」「彫漆（ちょうしつ）」という香川漆芸の三技法の基礎を築いた。
- 江戸時代、民衆の移動には厳しい制限があったが、神社仏閣への参拝の旅は許されていた。民衆の間で、伊勢参りに次いで^{こんぴら}参りが人気となり、また、四国遍路が行われるようになった。
- 讃岐国出身で、江戸時代の奇才と言われる平賀源内が発明家、本草学者、文筆家、画家など多方面で活躍した。



【近代以降】

- ・近代において、讃岐鉄道や琴平電鉄、国鉄が開通されて交通網がさらに発達し、高松港が拡張された。また、瀬戸内海が日本初の国立公園の指定を受け、屋島、栗林公園、琴平等香川県全域を巡遊する広域観光が進められた。港を中心にひと・もの・ことが広がり、つながっていったと言える。
- ・第2次世界大戦後、香川県出身である画家の猪熊弦一郎や「デザイン知事」と呼ばれた香川県知事の子正則を基軸として、香川県は著名な芸術家の交流の場となった。香川県に集った芸術家たちにより産み出された、**建築**を始めとした優れた芸術作品群は、日常生活の一角に溶け込み、地域の人々に親しまれている。
- ・自動車利用が大衆化する中で、瀬戸大橋の開通、新高松空港開港、高速道路開通による交通網の整備が行われた。こうした交通網の多様化、また、情報通信技術（ICT）やデジタル・トランスフォーメーション（DX）の進展により、ひと・もの・ことの交流がますますグローバルに広がっている。

③ 香川県人の気質は、同じ自然・地理条件、歴史の中で育まれてきた、文化芸術と同根のものである。

各時代において人々を引き付けてきたこの地における文化芸術の「螺旋」は、それまでの自然や歴史を活かしつつ、外から来る新しいものを広く受け入れ、それぞれのよさを調和・均衡させて生み出されてきたものである。

これらの文化の創出を可能としたのは、「来るもの拒まず去るもの追わず」の寛容な心と、「新物（しんもん）好き」の旺盛な好奇心、協調性があり明るく穏やかな香川県人の気質（精神的な豊かさ）である。

このような気質の背景には、瀬戸内海の温暖な気候に育まれた豊かな土壌により、富が蓄積され（物質的な豊かさ）、時間・心の余裕を生み、おおらかで明るい精神につながったこと、また、都と海を隔てたほどよい距離にあるコンパクトな県土という地理的特徴が、内外の往来への抵抗をなくし、新しいものに触れる環境を創り上げたこと、都の文化圏に取り込まれることなく、独自性を保てたことが挙げられる。

つまり、香川県の文化芸術が人々を引き付ける「引力」の根底には、瀬戸内海に育まれた豊かさがある。自然の豊かさに、ひと・もの・ことの盛んな交流や、農業・産業の発達、海上交通の発展といった「人工」が加わることで、新しい「自然」「文化」が生まれた。その繰り返しにより、多様性を受け入れ、新たなものをつくり出す豊かな精神が生まれ、すでに在るものを活かしながら新たなものと組み合わせる香川県の文化芸術の「引力」は、時代を重ねて螺旋状に増大してきたのである。

そうした環境の中から、空海、平賀源内といった「マルチクリエイター」の才能を有する人物が登場し、その活躍は後代まで大きな影響を与えている。

（2）コンセプト

- ・海上交通の主要路であり、都からほどよい距離にあったことから、国防の要衝となり、遠方に行くときの寄り所であり、都に戻るときの寄り所でもあった（行きし・往にしの寄り所）。ひと・もの・ことの結節点の役割を有し、古来（古（いにし）から）の豊かで静謐な自然環境、香川県民が持つ「ゆるぎたるぎ（ゆったりとした満ち足りた気持ち、いい塩梅）」精神は、「来るもの拒まず去るもの追わず」のおおらかさと自然体に表れ、一期一会のご縁（縁（えにし））を大切にする四国遍路の「お接待」に結び付き、これらは訪問者の心の「拠りどころ」にもなっている。
- ・以上により、香川県における文化観光のメインコンセプトを「**行きし・いにしのよりどころ**」とする。
- ・来館者に提示したい価値観は、「**Openness**」である。具体的には、海に開かれた場所にあること、日本国内や世界と交流してきたこと、温暖で明るい自然環境により緊張感を解きほぐされる開放感、香川県民が持つおおらかさや寛容さを表す。
- ・来館者に提示したいコンテンツは、「**天才たちを生み出した日本一こんまい県**」である。空海、平賀源内といった「マルチクリエイター」としての才を持つ稀代の「天才」たちが、日本一面積が狭い香川県においてなぜ生まれたのか、何を生み出してきたのか、後代にどのような影響を与えてきたのかなどを歴史、美術、自然科学を含んだ多角的な視点により提示する。
- ・以上により、サブコンセプトを「**Openness 天才たちを生み出した日本一こんまい県**」とする。

(3) 主要コンテンツ

(2) を特徴づける主要コンテンツとして、以下の三本柱を設定する。

①海に開かれた都市（まち）・高松

- ・近世以前の高松には、野原と呼ばれる中世の港町があり、多くの人やものが行き交う場所であった。
- ・生駒氏によって堀に瀬戸内海の海水を取り込んだ最古級の本格的な海城・高松城が築かれ、城の南には城下町が整備された。
- ・生駒氏の後、江戸時代には、将軍家に近く家格の高い松平家が「西国・中国の目付」として配置され、さらに城下町の整備が進められた。
- ・明治以降は香川県の県庁所在地となり、宇高連絡船就航後は「四国の玄関口」として発展していくことから分かるように、高松は交通の要所であり、政治的・軍事的にも重要な場所であった。
- ・瀬戸内海を行き来する人やものが出入りし、それらと讃岐の人や暮らしとの結節点である港、そこに広がる都市（まち）・高松は、新しいものを受け入れ、古いものと調和させながら進化を続けてきた香川県の文化を象徴的に示す場所である。



高松城下図屏風

②空海とこんぴらさん

- ・あらゆる分野に通じ、多くの功績を残した空海は、瀬戸内海の交易などを背景にし、最新の学問や文化に触れる土壌があった讃岐の「豊かさ」が生み出した「スーパーマン」のような人物である。空海ゆかりの聖地を巡る「四国遍路」は江戸時代に定着し、大衆化する。
- ・御祭神が広範な神徳を持ち海の神様として知られる大物主神であり、崇徳天皇が合祀される金刀比羅宮（こんぴらさん）は、江戸時代中頃から強い神威と加護を持つ神として、広く信仰されるようになった。
- ・航路や街道など交通網の整備が進むと、こんぴら参りや四国遍路の人々が讃岐を訪れるようになり、明治時代には、香川県初の鉄道が丸亀や多度津の港と琴平を結ぶルートで整備され、参拝客を運んだ。
- ・現在も、心の拠りどころを求めて、県外・国外から四国遍路の札所やこんぴらさんを訪れる観光客は多く、多くの方を引きつける文化資源となっている。



弘法大師像（善通寺御影）

③まちに溶け込むモダニズム建築

- ・高松は戦災で市街地の大半を焼失し、城下町の風情は失われたが、現在も町割りや地名などにその歴史をとどめる。
- ・戦後、新たに都市（まち）が整備される中で、香川県庁舎旧本館及び東館（重要文化財、丹下健三、1958 年）や香川県文化会館（大江宏、1965 年）など優れたモダニズム建築が生まれた。
- ・それらの建築は、香川県を舞台にした建築家や芸術家たちの交流・協働から生まれ、石など地域にある素材やそこで培われた技術、建てられた場所との関わりを意識して設計されている。
- ・史跡高松城跡、特別名勝栗林公園など、江戸時代から今日まで受け継がれる文化資源とモダニズム建築が、ともに自然に存在する様子は、「多彩で重層的な」文化の特徴を表している。



香川県庁舎旧本館及び東館

→これらを物語る役割を持ち、知っていただく契機になる入り口・振り返りの場（行きし・いにしのよりどころ）として、香川県立ミュージアム（以下「ミュージアム」という。）を中核拠点施設とする。

2 ミュージアム

(1) 概要

- ・郷土の歴史に関する県民の理解を深めるとともに、教育、学術及び文化の発展に寄与するため、平成 11 年に香川県歴史博物館として開館した。平成 19 年に瀬戸内海歴史民俗資料館（昭和 48 年開館）が分館となり、平成 20 年に香川県文化会館（昭和 41 年開館）が担ってきた美術部門を統合し、「香川県立ミュージアム」となる。
- ・以後、歴史博物館と美術館の機能を併せ持つ、総合的なミュージアムとして幅広い活動を行い、瀬戸内海歴史民俗資料館と香川県文化会館は分館として、本館ミュージアムと機能分担しながら、特色ある活動を続けている。
- ・ミュージアムは、JR 高松駅、琴電高松築港駅、高松港から徒歩圏内と交通の便がよい場所にあり、北に瀬戸内海、西に史跡高松城跡、東に史跡・天然記念物屋島を望む香川の歴史を感じられる場所に位置している。
- ・古代から現代まで幅広い時代の歴史・美術を対象とし、県内の中核施設としての施設規模・人員を備える。



(2) 施設の特徴

- ・香川県歴史博物館の開館時に整備された、原始から現代までの香川の通史を展示する「歴史展示室」を備える。時代順に配置した分かりやすい内容となっており、映像や大型の展示物で時代の雰囲気を感じることができるようにしている。香川県の歴史を通観できる展示を常時観覧可能な唯一の施設である。
- ・国宝・重要文化財など貴重な資料を忠実に写した複製資料で空海の事績をたどる「空海室」（常設展示室 3）を備える。空海の生涯と事績を通観できる展示室は、国内唯一である。
- ・通年展示の「歴史展示室」「空海室」のほか、収蔵品を中心に年間 15 回程度のテーマ展を開催する「常設展示室」、年間 4 回程度の特別展を開催する「特別展示室」を備える。
- ・無料ゾーンの 1 階には、イサム・ノグチの大型彫刻「アーケイック」を常設展示するほか、多目的室で重要文化財附の剣持勇「香川県庁舎知事執務机」などを展示している。体験学習室では、十二単や甲冑の着付けを体験したり、昔のおもちゃで遊んだりできる。
- ・地下 1 階には講演会や講座を行うための講堂・研修室、ワークショップ等を行う工作室や、博物館施設としては珍しい、調理ができる実習室を備えている。



歴史展示室





空海室



体験学習室（着付け体験）

（３）収蔵品

- ・香川県歴史博物館と香川県文化会館が収集してきた幅広い時代・分野の資料作品を核としたコレクションを有する。
- ・高松松平家伝来の旧大名家資料を一括して収蔵するほか、香川県ゆかりの作家の作品などを数多く収蔵・展示している。

収蔵品点数 331,683 点（令和 6 年 3 月 31 日現在） 国指定等文化財については別表

※ 国宝 2 件、重要文化財 12 件、重要美術品 13 件、香川県指定有形文化財 12 件を含む。

①海に開かれた都市（まち）・高松

瀬戸内海に面し、堀に海水を引き込んだ海城・高松城を居城に、寛永 19 年（1642）から東讃岐 12 万石を治めた大名・高松松平家に伝来する歴史資料を一括して収蔵している。初代頼重の時代に制作され、17 世紀中頃の高松城下の景観を描いた「高松城下図屏風」、藩主が参勤交代に用いた御座船を描いた絵図、5 代藩主頼恭（よしかた）の命により制作された博物図譜 4 種 13 帖のうち、将軍家にも献上された水生生物の図譜「衆鱗図」など海との関わりを物語る資料のほか、国宝「藤原佐理筆詩懷紙」をはじめとする書跡の名品や香川漆芸の祖・玉楮象谷の作品などを含む 5,000 点以上の資料がある。

高松城下図屏風 県指定（高松松平家歴史資料）

高松藩御座船飛龍丸船明細切絵図 県指定（松平公益会資料）

栗林図（高松松平家歴史資料）

藤原佐理筆詩懷紙 国宝（高松松平家歴史資料）

高松松平家博物図譜 県指定（高松松平家歴史資料）寄託

玉楮象谷「堆朱鼓箱」県指定（高松松平家歴史資料） 工芸



藤原佐理筆詩懷紙



高松藩御座船飛龍丸船明細切絵図



高松松平家博物図譜 衆鱗図

②空海とこんぴらさん

現存する四国遍路の絵図の中で刊行年が記されている最も古い絵図をもとに作成された「四国徧礼絵図」のほか、近世～近代の四国遍路、金毘羅参詣に関わる絵図や記録資料を多数収蔵している。

空海室において空海に関わる国宝、重要文化財などの貴重な資料を忠実に写した複製資料を、歴史展示室において金毘羅信仰の広がり象徴する江戸講中燈籠の実物大復元や江戸時代の金毘羅の賑わいが分かる「金毘羅祭礼図屏風」（複製、金刀比羅宮所蔵）を常設展示している。

弘法大師像（善通寺御影）

真言八祖像のうち 龍智・善無畏・一行・空海

四国徧礼絵図

金毘羅参詣名所図会

③まちに溶け込むモダニズム建築

丹下健三の設計による香川県庁舎旧本館及び東館（重要文化財）の知事室で使用されていた机やサイドボード、香川県立体育館で使用されていたテーブル・椅子など剣持勇がデザインした家具類を1階で常設展示している。丹下と関わりが深く、建築家との協働による作品を残しているイサム・ノグチや猪熊弦一郎の作品も収蔵している。

過去に開催した展覧会に際して作成された建築模型や、香川県庁舎や香川県立体育館の建設に関わる図面・写真等多くの資料類も収蔵し、継続的に展示等で活用している。

剣持勇「香川県庁舎知事執務机」など 1958年（重要文化財附） デザイン
イサム・ノグチ「アーケイック」1981年 ほか

（24点＋AKARI32点：イサム・ノグチ作品を国内公立館の中で最多所蔵）
ホンマタカシ「香川県庁舎旧本館及び東館」ほか 2013年 写真



香川県庁舎知事執務机



アーケイック



AKARI

3 周辺環境

- ・史跡高松城跡の東に近接し、旧東ノ丸に位置する。整備に伴う発掘調査では、東ノ丸の堀の石垣が発見され、東側入口には発見された石垣を復元している。
- ・館内2階西ロビーからは、月見櫓、艮櫓、披雲閣（いずれも重要文化財）、披雲閣庭園（名勝）のほか、史跡の構成要素である天守台や桜の馬場など高松城跡を一望できる。
- ・徒歩圏内で、ミュージアムの南側には、総延長約2.7kmで日本一の長さを誇る高松中央商店街が広がる。現在の商店街は、江戸時代の城下町として整備された地域で、ミュージアムが所蔵する「高松城下図屏風」にも描かれている。
- ・商店街を南へ通り抜けた先には、特別名勝栗林公園がある。栗林公園は、江戸時代「栗林荘」「御林」と呼ばれる高松松平家の「御庭」、大名庭園だった。紫雲山を背景に香東川の豊かな伏流水を利用した美しさには定評があり、国内外から多くの方が訪れる県内有数の観光地である。



4 関連県有施設

（1）瀬戸内海歴史民俗資料館

- ・瀬戸内海歴史民俗資料館は、瀬戸内地方を構成している11府県全域を対象として、歴史、民俗等に関する資料の収集、保管、展示、調査及び研究を行うことによって、郷土の歴史と文化財に対する認識を深めることを目的として昭和48年に設立され、平成19年にミュージアムの前身である香川県歴史博物館の分館となった。
- ・瀬戸内地域の漁撈用具や船大工用具などの国重要有形民俗文化財指定を受けたり、民俗・歴史・考古各分野にわたる報告書を刊行したりするなど、瀬戸内海広域を対象にした活動を行っている。
- ・備讃瀬戸を一望できる瀬戸内海国立公園内の景勝地五色台に位置し、香川県建築課長であった山本忠司の設計による建物は石積みを基調として五色台の自然環境によく調和した特徴を持ち、「日本建築



学会賞」受賞をはじめ、「公共建築百選」や「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」に選ばれるなど著名なモダニズム建築である。

(2) 香川県立東山魁夷せとうち美術館

- ・香川県立東山魁夷せとうち美術館は、日本画家・東山魁夷の祖父が坂出市櫃石島の出身で、本県とゆかりが深いことから、遺族から寄贈を受けた作品が広く鑑賞されることを目的として、平成 17 年に開館した。ゆかりの地である櫃石島と瀬戸大橋が眼前に広がり、万葉のロマン漂う歴史的遺産や瀬戸内海の美しい自然に囲まれ、心の癒しや憩いの場となる美術館である。
- ・建物は国際的建築家である谷口吉生の設計で、海側と公園側を隔てるように 2 枚の大きな壁が東西を貫き、魁夷の風景画を鑑賞した後に海側の視界が開ける特徴を持つ。



(3) 香川県文化会館／香川県漆芸研究所

- ・香川県文化会館は昭和 41 年に開館し、平成 20 年にミュージアムの分館となった。香川漆芸の三技法の伝承と後継者の育成を目的として昭和 29 年に設立された香川県漆芸研究所は平成 21 年に同会館に移転した。
- ・建物は戦後の日本を代表する建築家の大江宏によって設計され、鉄筋コンクリート造りの近代建築の様式美に、茶室や和室などの日本建築の伝統美を融合させた特徴を持つ。



(4) 香川県庁舎旧本館及び東館

- ・世界的な建築家である丹下健三の代表作の 1 つで、香川県随一のモダニズム建築である。香川の気候風土、高松の環境に適応するよう、また、建築資材に県内産のものを活用して建てられた。鉄筋コンクリートで造られた日本の伝統建築に通じる表現、正面玄関（ピロティ）やロビーなどの県民に開かれた空間に加え、受付カウンターや椅子などの家具類も優れたデザインであり、歴史的価値が高いと評価されている。
- ・1 階ロビーの壁画「和敬清寂」を猪熊弦一郎が、知事執務机等のデザインを剣持勇が手掛けるなど、著名なアーティスト達が携わり、「アート県かがわ」の礎となっている。
- ・令和 4 年 2 月に「香川県庁舎旧本館及び東館」として、国の重要文化財に指定された。



(5) 栗林公園

- ・16 世紀後半は地元豪族の小さな庭であったが、17 世紀前半に生駒氏の家臣により広大な庭園の基礎が築かれ、庭造りは高松松平家にも引き継がれて、5 代藩主・頼恭の時代に完成し、高松松平家の下屋敷（別邸）として使用された。
- ・明治 8 年に県立公園として一般に公開され、昭和 28 年に名勝地として特に価値が高い「特別名勝」に指定された。
- ・広大な敷地に池泉や築山などを配し、園内を散策しながら移りゆく景観を楽しむことができ、一歩歩くごとに風景が変わる「一歩一景」の多彩な造形美と四季折々、そして移ろいゆく時間の変化を体感できる「幽玄の美」が魅力である。
- ・年間 70 万人以上の観光客が訪問する香川県を代表する人気観光地である。



3-1-2. 来訪客の動向

1 香川県全体の観光客動向

(1) 来県観光客数の推移

①観光客入込数の推移

(千人)

年	県外からの 観光客入込数	備 考
H29	9,464	
30	9,416	
R1	9,687	瀬戸内国際芸術祭 2019 開催
2	6,184	新型コロナウイルス感染拡大
3	5,818	新型コロナウイルス感染影響の通年化
4	7,770	瀬戸内国際芸術祭 2022 開催 新型コロナウイルス感染症に係る行動制限の解除

出典：香川県「令和4年香川県観光客動態調査報告（確定版）」（令和5年7月発表）

②延べ宿泊者数（全体、外国人）

○全体

(千人)

年	延べ 宿泊者数	うち外国人 (()内は、延べ宿泊 者数に対する割合)	備 考
H29	3,758	482(12.8%)	
30	4,048	546(13.5%)	
R1	4,659	772(16.6%)	瀬戸内国際芸術祭 2019 開催
2	2,529	81(3.2%)	新型コロナウイルス感染症の影響
3	2,270	14(0.6%)	新型コロナウイルス感染症の影響
4	3,240	34(1.0%)	瀬戸内国際芸術祭 2022 開催 新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置 の終了（3月） 海外からの入国制限の段階的緩和（4月以降）

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」第2表（各年7月発表）

○香川県外国人延べ宿泊者数 主な国・地域別内訳

(%)

年	台湾	中国	香港	韓国	アメリカ	フランス	オースト ラリア	シンガ ポール	ベトナム	インド
H29	27.9	17.0	14.5	13.7	2.7	0.9	0.8	0.4	0.1	0.2
30	26.8	19.4	14.7	16.8	3.7	1.8	1.4	0.6	0.2	0.3
R1	29.9	26.1	14.8	10.7	4.0	1.9	1.9	0.7	0.2	0.3
2	27.8	19.3	20.6	6.3	3.6	0.8	1.7	0.6	3.5	0.1
3	1.2	12.1	0.5	3.8	3.0	1.7	0.5	0.1	26.8	4.1
4	9.1	6.8	11.0	18.8	8.5	2.6	2.5	4.5	2.6	2.1

観光庁「宿泊旅行統計調査」（各年7月発表）参考第1表をもとに計算。網掛けは各年での割合最大値

(2) 来県観光客アンケート調査概要

①基本情報

- ア 調査名：令和4年度観光客アンケート調査（令和5年7月発表）
- イ 調査実施団体：公益社団法人香川県観光協会
- ウ 調査方法：調査員による対面聞き取り調査
- エ 調査対象：香川県内主要観光地（11箇所）の来訪者 16歳以上の男女個人
- オ 調査実施日：令和4年8月7日（日）、11月13日（日）、令和5年1月22日（日）
- カ 調査サンプル数：3,140 サンプル（うち1,274は観光実態調査）

②観光客のプロフィール（香川県観光地点パラメータ調査）

- ア 性別・年齢
 - ・「男性」が48.8%、「女性」が51.2%

- ・年齢構成は「40代」22.5%が最も多く、次いで「30代」20.2%、「20代」18.0%、「50代」15.1%と続く。

イ 居住地

- ・県外観光客割合は 67.4%。内訳としては「近畿」25.3%、「山陽」23.6%、「四国（香川県を除く）」22.7%、「関東」15.6%と続く。

③県外観光客の香川県観光の動機（香川県観光実態調査）

ア 香川県選択理由

- ・「讃岐うどん」48.3%、「瀬戸内海の家や島などの豊かな自然」35.9%、「レジャー施設に行くため」23.7%、「文化的、歴史的な旧跡、史跡を見るため」23.3%、「アクセスがしやすい」15.9%と続く。

イ 参考にした情報媒体

- ・「インターネット」48.0%、「クチコミ・SNS」28.2%、「過去（香川県）の旅行経験」15.0%、「テレビ・ラジオの番組やCM」9.3%と続く。

④県外観光客の観光実態（香川県観光地点パラメータ調査＋香川県観光実態調査）

ア 観光日程

- ・「1泊2日」が45.3%と約半数を占め、次いで「日帰り」35.3%と続く。
- ・県外観光客の県内の平均宿泊数は1.47泊となっている。

イ 旅行人数

- ・旅行人数は「2人」が37.1%と最も多く、次いで「4人」18.8%、「5人以上」17.6%、「3人」17.1%と続く。
- ・旅行人数が2人以上の同伴者は、「家族」が70.4%と最も多く、次いで「友人」24.5%となっており、その他は「職場・学校等の団体旅行」等となっている。

ウ 香川県への訪問回数

- ・「4回以上」が48.9%と最も多く、「初めて」28.1%、「2回目」14.3%、「3回目」8.6%と続く。

エ 立寄り観光地点

- ・県内の立寄り観光地点数は「1地点」が69.3%と最も多く、「2地点」18.7%、「3地点」8.0%と続き、平均立寄り地点数は1.48地点となっている。

オ 県内消費金額

- ・県外宿泊観光客の消費金額は30,748円、県外日帰り観光客は6,973円となっている。

⑤香川県の観光しての印象（香川県観光実態調査）

ア 満足度

- ・「大変満足した」が26.8%、「満足した」が55.9%、「やや満足した」が11.1%で、満足度は90%以上となっている。

イ 満足度の理由（訪れた観光地についての感想）

- ・「自然・景色がよい」24.1%で最も高く、また、具体的な理由は挙げられていないが、「きれい、美しい」8.1%、「アート、展示品」4.8%、「よい、すばらしい、満足」4.6%となっている。
- ・良くなかった点では、「天候・気候が悪い」17.7%、「アクセスが悪い・便数が少ない」8.2%、「店が少ない」7.8%、「料金が安い」7.1%となっている。

ウ 再来訪意向（県外観光客）

- ・「ぜひ来たい」が37.3%、「来たいと思う」48.8%、「やや来たいと思う」7.7%で、90%以上が再来訪の意向を示した。

エ 香川県の魅力（県外観光客）

- ・「讃岐うどん」が57.0%でトップであり、次いで、「瀬戸内海の家や島などの豊かな自然」45.4%、「文化的、歴史的な旧跡、史跡」30.7%、「レジャー施設」22.8%、「アクセスがしやすい」18.4%と続く。

オ 期待や要望

- ・交通インフラ、施設の充実、情報発信に対する意見が多く寄せられた。
- ・「交通インフラ」については、「交通料金を安くしてほしい」「交通のアクセスを良くしてほしい」、「施設の充実」については、「観光料金の値下げやクーポンの充実」、「新しい観光地・施設の開発を望む」、「情報発信」については、「もっとPRや情報を流してほしい」、「観光マップを充実、分かりやすくしてほしい」等の要望が多かった。

(3) インバウンドの状況

①来県外国人観光客数内訳（出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」）

【2019（R1）年】

1位：台湾 29.9% 2位：中国 26.1% 3位：香港 14.8% 4位：韓国 10.7% 5位：米国 4.0%

【2022（R4）年】

1位：韓国 18.8% 2位：香港 11.0% 3位：台湾 9.1% 4位：米国 8.5% 5位：中国 6.8%

高松空港からの直行国際便の運航がある韓国、香港、台湾、中国が上位を占める。

2019年と2022年を比較すると、ヨーロッパからの観光客の割合が増加している。

※ フランス 1.9%→2.6%、英国 1.3%→2.2%、ドイツ 0.8%→1.3%

②訪日外国人消費動向調査（2019年観光庁、空港等利用者アンケートに基づく。）

【観光・レジャー目的】

・香川県への訪問率：1.2%（全国第22位）

・香川県の訪日外国人の平均宿泊数：3.3泊（全国第5位）

・香川県のインバウンド 1人1回あたり旅行消費単価：46,417円（全国第7位）

※ 外国人訪問者数（訪問率）は全国中位であるが、平均宿泊数及び旅行消費単価は全国上位である。

③来県外国人観光客の傾向（概要）

- ・訪日リピーターの多い台湾、中国、韓国では、アート、名所、風景、讃岐うどんが有名
- ・アートでは、3年に一度の瀬戸内国際芸術祭の舞台ともなる直島、豊島の知名度が高い。
- ・名所では、栗林公園、琴平、小豆島の知名度が高く、訪れる機会も多い。
- ・風景では、近年、インスタ映えで有名になった父母（ちちぶ）が浜、紫雲出山（しうでやま）、高屋神社、小豆島のエンジェルロードやオリーブ公園などが人気である。
- ・讃岐うどんに対する人気も高く、うどん店を巡るバスへの問合せもある。さらに、うどん作り体験や和三盆の型抜き体験、瀬戸内海ならではのスタンドアップ・パドルボード（SUP）など、香川県ならではの体験も人気である。

④外国人観光客の興味関心、行動特性（出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査【トピックス分析】訪日外国人（観光・レジャー目的）の宿泊費上位15%の旅行者に関する詳細分析」（分析データは訪日外国人消費動向調査2019年間確報値））

ア 概要

- ・観光・レジャー目的の訪日外国人の1人1泊当たり宿泊費について、国籍・地域別に見ると「欧米豪」で特に高い水準となっている。
- ・人数では宿泊費で上位15%に入る群が旅行消費額の約25%を占めている。
- ・宿泊費上位15%は、下位85%に比べて宿泊費以外でも支出が多い傾向にある。

イ 「美術館・博物館など」「歴史・伝統文化体験」の関心度合い（%）

国・地域名	回答	今回したこと	満足したこと	次回したいこと
台湾	美術館・博物館など	22.8	20.0	9.8
	歴史・伝統文化体験	21.5	19.0	19.9
中国	美術館・博物館など	25.3	24.9	20.0
	歴史・伝統文化体験	23.4	21.8	23.9
香港	美術館・博物館など	20.6	19.4	8.4
	歴史・伝統文化体験	16.5	15.1	15.6
韓国	美術館・博物館など	16.9	14.1	8.5
	歴史・伝統文化体験	7.3	5.9	9.7
欧米豪※	美術館・博物館など	59.3	58.1	36.5
	歴史・伝統文化体験	63.8	63.2	49.3

※ 英国・フランス・ドイツ・イタリア・スペイン、米国、カナダ、豪州

- ・美術館・博物館などの文化施設や歴史・伝統文化体験に対する関心は、欧米豪からの観光客の方がアジア圏からの観光客より際立って高い。

(4) 来県観光客の動向にみられる傾向分析

①県外観光客

- ・観光日程は「1泊2日」「日帰り」が8割を超え、短期間である。また、立寄り観光地点は「1地点」が7割を占めており、点での訪問となっている。
- ・来県目的としては、「讃岐うどん」、「瀬戸内海の家や島などの豊かな自然」、「文化的、歴史的な旧跡、史跡」が上位を占めている。
- ・要望としては、交通インフラ（「交通のアクセスを良くしてほしい」）、施設の充実（「新しい観光地・施設の開発を望む」）、情報発信（「もっとPRや情報を流してほしい」、「観光マップを充実、分かりやすくしてほしい」）に対する意見が多い。

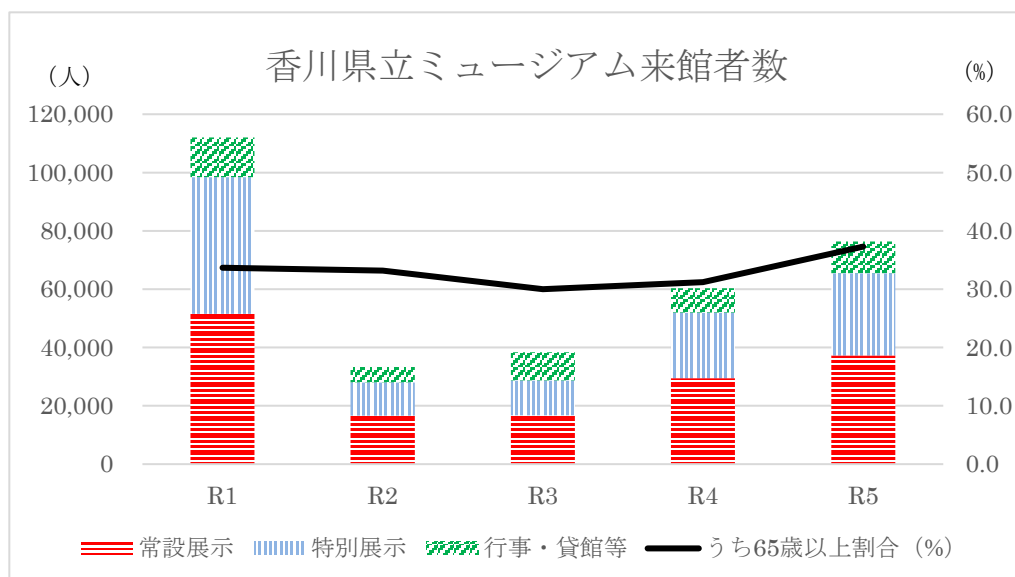
②外国人観光客

- ・高松空港からの直行国際便の運航がある韓国、香港、台湾、中国が上位を占めるが、欧米豪の割合が増加傾向にある。
- ・欧米豪からの観光客は四国地方では4泊以下が8割を占めており、短期滞在となっている（四国地方における延べ泊数の構成比としては香川県が最も多い。）。（出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査【トピックス分析】欧米豪観光客の地方訪問状況に関する詳細分析」（分析データは訪日外国人消費動向調査2018年間確報値））
- ・美術館・博物館などの文化施設や歴史・伝統文化体験に対する関心は、欧米豪からの観光客の方がアジア圏からの観光客より際立って高い。

2 ミュージアム来館者動向

(1) 年間来館者数の推移

	R1	R2	R3	R4	R5
来館者数	112,083	33,343	38,317	60,301	76,339
常設展示	51,492	16,647	16,754	29,470	37,273
特別展示	46,985	11,376	12,010	22,484	28,232
行事・貸館等	13,606	5,320	9,553	8,347	10,834
うち65歳以上	37,828	11,078	11,505	18,799	28,482
〃割合(%)	33.7	33.2	30.0	31.2	37.3



(2) 来館者アンケート調査結果（居住地、年代、来館回数）

【調査期間（有効回答数）】R5. 8. 17～30（119人）、R5. 9. 15～28（91人）、R5. 11. 28～12. 10（97人）

①居住地

- ・県外からの来館者の割合は48.2%。内訳としては「関東」34.5%、「近畿」17.6%、「中国」11.5%、「四国（香川県を除く）」10.1%と続く。
- ・国外からの来館者の割合は7.8%。内訳としては「欧米豪」37.5%、「香港」33.3%、「韓国」

12.5%、「台湾」8.3%と続く。

②年代

- ・国内については「65 歳以上」35.1%が最も多く、次いで「40 代」14.9%、「50 代」14.5%、「19～24 歳」10.6%と続く。
- ・国外については「40 代」25.0%が最も多く、次いで「10～18 歳」「25～29 歳」「60～64 歳」「65 歳以上」がそれぞれ 12.5%と続く。

③来館回数

- ・県内については「来たことがある」80.6%、「初めて来た」19.4%。
- ・県外については「初めて来た」90.5%、「来たことがある」9.5%。
- ・国外については「初めて来た」70.8%、「来たことがある」25.0%。

(3) 来館者の動向にみられる傾向分析と対策

①傾向分析

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により来館者数が減少したが、観光客数の回復に比べ、来館者数の回復が遅れている。
- ・外国人観光客は少なく、国内においては県内からの来館者数が大半と考えられる。
- ・県外からの来館者は初めての方が多く、逆に、県内からの来館者はリピーターが大半である。
- ・65 歳以上の年代が多い。

②対策

- ・外国人観光客を取り込むためには、外国人観光客向けの周知を行い、多言語対応や Wi-Fi 整備を行う必要がある。
- ・県外からの来館者のリピーター＝ファンを増やすため、魅力のある展示の充実や分かりやすい作品解説を行う必要がある。
- ・ミュージアムを来館したことのない香川県民に来館していただけるよう関心を引くことができる周知を行う必要がある。
- ・将来の文化振興の担い手となる若年層が来館したくなるような周知や楽しみながら理解を深められる体験型メニューを増やす必要がある。

3 ターゲットとする来訪者

本計画で提示したい文化芸術の特徴は多様性や重層性にあり、分野が違っても共通する本質の存在を感じ取り興味を掻き立てられる方＝感度の高い方をコアターゲットとする。ペルソナ像は以下のとおりである。

(1) 国内観光客

- ・性格として、知的好奇心の高い方、文化に対する感度の高い方、フットワークの軽い方、好きなことに時間を割ける方を想定する。
- ・明確な目的を持って来県する方が多いところ（点での訪問）、訪問目的を①ART SETOUCHI 参加（3 年に 1 度開催される「瀬戸内国際芸術祭」とその間に取り組まれる活動の総称）、②建築巡り、③四国遍路、④栗林公園訪問とする。

※ ①のうち瀬戸内国際芸術祭 2022（105 日間）の総来場者数は約 72 万 3 千人（瀬戸内国際芸術祭 2019（107 日間）は約 117 万 8 千人）で、来場者アンケートによれば、30 代以下が 45.1%（瀬戸内国際芸術祭 2019 では 51.1%）。（出典：瀬戸内国際芸術祭実行委員会「瀬戸内国際芸術祭 2022 総括報告」）

④栗林公園の入込客数は令和 4 年で約 50 万 4 千人（令和元年は約 78 万 3 千人。出典：香川県「令和 4 年香川県観光客動態調査報告」）

- ・年代として、特に訪問目的①②で相当割合を占める若年層を中心とする。
- 「行きし」にミュージアム 1 階「よりどころ」に寄り、当初の目的地に関する成り立ちや背景、他の文化・観光エリアとの関わりを知っていただくことで、当初の目的地以外の場所＝ミュージアム 2・3 階や文化・観光エリアへの関心を掘り起こし、面での訪問につなげる。

加えて、訪問目的③については、ミュージアムは第 83 番札所・神毫山大宝院一宮寺、第 84 番札所・南面山千光院屋島寺の間に位置することから、途中でも寄っていただくことを目指す。訪問目的④については、ミュージアムは高松松平家に関する歴史や文化財をより深く知ることでできる場所として、「往にし」にも寄っていただくことを目指す。

(2) 外国人観光客

- ・美術館・博物館、歴史・伝統文化体験への関心が高く、瀬戸内国際芸術祭における外国人来場者数の中で一定割合を占める欧米豪からの観光客を対象とする。
- ※ 世界的に人気の高い旅行ガイドブック「ロンリープラネット」が 2021 年秋に発表したおすすめの旅行先ランキング「Best in Travel 2022」地域編で、**遍路**など地域固有の文化やアートなどの多彩な観光の魅力が評価されて「四国」が 6 位に選ばれている。
- ・旅先で自由に旅程を組み立てられる長期旅行かつ個人旅行者とし、日本の歴史・文化に明確な関心を持ち、未知のおもしろい体験や癒しを求めている方で、年代は若年層・中年層を中心とする。
- ※ 直行国際便運航地域であり、現時点で来県外国人観光客の上位を占める韓国、香港、台湾、中国からの来訪者の取込みも重要であると考えており、同地域についてもアプローチしていく。

3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較

1 高松市美術館

(1) 概要

- ・高松市美術館は、昭和 24 年に栗林公園内に地方の公立美術館として全国に先駆けて誕生、昭和 63 年に現在地に移転新築し、平成 28 年にリニューアルオープンした。高松中央商店街に隣接し、利便性がよく、現代的なスタイルと落ち着いた雰囲気を持つアートスポットである。
- ・「戦後日本の現代美術」「20 世紀以降の世界の美術（版画）」「香川の美術（工芸）」を軸として系統的に収集してきた同館所蔵の美術作品、中でも質・量ともに日本屈指となった現代美術のコレクションは、国内外での評価が高い。



(2) 参考となる取組み

「市民を始め、国内外の人々に親しまれ創造性あふれる美術館づくり」を目指して、以下の取組みを推進している。

①展示の充実

市民を始め、より多くの人々が楽しめるポピュラーで集客性の見込める巡回展とともに、美術的に優れ、独自性や必然性が高く、市民等に新しい美術手法や表現方法を紹介できる自主企画展や常設展を開催している。

②施設内空間の有効活用

美術館に親しむ動機付けとなるよう、エントランスホールでコンサート等の各種イベントを開催している。

③地域との連携

高松中央商店街内の懸垂幕設置やポスター掲示などの広報活動、商店街内のショーウィンドウにおいて特別展と連動した展示等を行う「ランチギャラリー」、また、高松市美術館サポートショップ事業など、商店街を中心とした地域との連携を強化している。

④施設の広報

特別展ごとに大きな懸垂幕を建物壁面に設置している。

(3) ミュージアムとの関係

ミュージアムとは比較的近距離にあり、現時点でも相互割引や収蔵品貸借といった連携を行っているが、香川漆芸や地元出身アーティストなど共通項も多いことから、同時期に同じテーマで異なる切り口の展覧会開催やまち歩きツアーの共同実施など、さらに連携を深めることが可能である。

2 大分県立美術館（OPAM）

（1）概要

- 大分県の東部に位置し、大分駅から徒歩 10 分の好立地にある。1 階をガラス張りにし、2 層吹抜のアトリウムを設けるなど、美術館になじみ薄い方たちを引き寄せ、美術を楽しんでもらい、日常的に人々が集まる、街に開かれた縁側としての美術館を目指している。
- 運営コンセプトとして、「五感で楽しむことができる」美術館、「出会いによる新たな発見と刺激のある」美術館、「自分の家のリビングと考える」美術館、「県民とともに成長する」美術館を挙げており、「芸術文化の拠点」としてカルチャーツーリズムのゲートウェイ／ハブとしての機能を目指している。



（2）参考となる取組み

「五感のミュージアム」「出会いのミュージアム」をテーマに、「出会いと融合」を実現するための取組みを推進している。

①展示の充実

人気のテーマを題材とした集客力のあるマスコミ連携企画を誘致するとともに、学芸員の研究に基づいた県民に新たな発見や刺激を与える自主企画展をバランスよく開催している。また、大分の歴史と文化や所蔵品の魅力についてテーマを設けて来場者に分かりやすく提供するコレクション展を開催している。

②施設内空間の有効活用

新しい発見や刺激に満ちた人々が行き交う交流拠点として、1 階アトリウムを中心に、多様な展示に加え、演奏会などのイベントを実施している。また、カフェ・ミュージアムショップでは、企画展やコレクション展と連携したメニューを開発し、商品ラインナップを拡充している。

③地域との連携

文化観光のゲートウェイとして位置付けるため、各種交通機関との連携強化、地域の文化施設や観光業界等と連携している。

（3）ミュージアムとの関係

本計画において目指す「よりどころ」は、香川県の文化芸術に触れるゲートウェイとして、気楽に立ち寄れる開かれた場所、展示観覧だけでなく様々な観点で自由を楽しめる場所、来訪者の感性を揺さぶり自分にとっての何かを発見できる場所であることから、OPAM の運営コンセプトやカルチャーツーリズムのゲートウェイとしての機能は参考とすべき先行事例となる。

3 ミュージアム

（1）伸ばすべき特長

①歴史博物館機能と美術館機能を併せ持ち、豊富な歴史資料を有する。

香川県における文化芸術に関する語り部として、豊富な歴史資料を裏付けとしながら、歴史的観点・美術的観点を融合させ、これまで積み重ねられてきた多彩な文化芸術の魅力について、歴史・美術等の分野の垣根を越えた、俯瞰して見る視点（「鳥の目」）、細部を見る視点（「虫の目」）、流れやつながりを見る視点（「魚の目」）といった多角的視点からの展示が可能である。

特に、国内唯一の空海室は主要コンテンツ三本柱の 1 つである「スーパーマン」空海の生涯と事績を通観でき、近世から現在に至るまで多くの人々を惹きつける四国遍路と結びつけた解説が可能である。

②周辺環境や交通における立地がよい。

瀬戸内海に臨み玉藻公園に隣接した周辺環境のよさ、主要交通拠点や高松中央商店街から徒歩圏内にある利便性の高さといった立地のよさは、「よりどころ」にふさわしい。

（2）克服すべき課題

①展示の充実

これまで本県ならではの歴史や美術に関する質の高い展覧会を開催してきており、常設展示である歴

史展示室や空海室についても一定の評価がされているが、来館者は元々歴史や美術に関心がある方が中心となっており、文化芸術にあまりなじみのない方や香川県の歴史に関心が薄い観光客に対する訴求力が乏しい。また、テーマによって集客にばらつきがあるため、多くの人々が楽しめるポピュラーで集客性の見込める展覧会と、コレクションや地域の文化資源を活かしつつ来館者に新たな発見や刺激を与える展覧会をバランスよく開催する必要がある。

②エントランス空間の有効活用

1階には、図書コーナー、体験学習室、多目的室、ミュージアムショップ、カフェがあるが、一体的に有効活用できているとは言えない。特に、エントランスホールは吹き抜けの開放的な広い空間ではあるが、ミュージアムがどのような施設かを示す情報が非常に少なく、寂しい印象を受ける。本計画のコンセプトを体現できるように、アナログ・デジタル双方の手法を活用したフロアレイアウトの見直しを行う必要がある。

また、主要交通拠点や高松中央商店街からミュージアムを目指す際に、建物に目立つ目印がなく、場所が分かりにくいとの指摘があることから、案内サインや建物サインの掲示が必要である。

③地域との連携

隣接する玉藻公園や栗林公園、高松市美術館との相互割引や収蔵品貸借を行っていたり、高松中央商店街でポスターやチラシ設置の協力を得たりしているが、ミュージアムを中心としたまちのにぎわいづくりの観点からも、さらに連携できる余地がある。

④施設の広報

ポスター掲示やチラシの設置などにより広報に努めているが、十分ではない。特に、ミュージアムホームページは香川県ホームページに組み込まれているため共通様式に従わざるを得ず、見やすく関心を引く内容とは言い難いことから、分かりやすく、閲覧者が視覚的に楽しめるようなレイアウトを検討する必要がある。

3-2. 課題

課題1 香川県固有の文化資源の魅力が十分に伝えきれていない。

これまで本県ならではの歴史や美術に関する質の高い展覧会を開催してきているが、テーマによって集客にばらつきがある。常設展示である歴史展示室や空海室についても一定の評価がされているが、いずれの観覧についても来館者は元々歴史や美術に関心がある方が中心となっている。

新型コロナウイルス感染症の影響により来館者数が減少したが、観光客数の回復に比べ、来館者数の回復が遅れている。来館者の傾向として、県内からの来訪者が大半であり、かつリピーターが多く、また、65歳以上の年代が占める割合が大きいことが原因と考えられることから、若年層、歴史や美術にあまりなじみのない方や観光客の興味を惹きつけられるような展示の工夫が必要である。

課題2 エントランス空間への来訪を促すような活用が不十分である。

1階にある図書コーナー、体験学習室、多目的室等には、特段の共通項はなく、それぞれが独立して存在しており、各室間の人の流れが乏しい。また、エントランスホールはミュージアムに関する情報が非常に少なく、寂しい印象を受ける。

人の流れを増やすには、各室自体の魅力をさらに高め、ミュージアムに関する情報を提供する機能を追加するとともに、エントランス空間の導線を設定する必要がある。

加えて、香川県歴史博物館の開館当初に想定していた施設における導線は現状では適しておらず、特定の展示を目指して訪問する来館者が大多数であり、車での来館者は地下駐車場のエレベーターから2階・3階の展示室に直行し、観覧後そのまま地下駐車場に降りることも少なくないため、1階に立ち寄るための導線を新たに設定する必要がある。

さらに、主要交通拠点から徒歩圏内であり複雑な道順ではないにも関わらず、建物に目立つ目印がなく、場所が分かりにくいとの指摘がある。

課題3 観光客が香川県の文化・歴史を楽しみながら体感することができる仕掛けが不足している。

ミュージアム・ワークショップやキッズワークショップ、着付け体験や昔のおもちゃで遊べる体験学習室といった体験型メニューはあるが、数が限られている。また、香川県歴史博物館時代に郷土料理体験等で利用していた実習室の活用ができていない。

2階西側ロビー、地下1階の講堂や工作室などで、講座や展示に関連したコンサート等のイベント、ワークショップを実施しているが、1階のエントランス空間の中でも一体的に楽しめるような仕掛けづくりに取り組む必要がある。

さらに、文化資源を体感するには実物に触れることが重要であることから、県内随所にちりばめられた文化資源を巡る仕掛けが必要である。

課題4 外国人観光客に対する周知・対応ができていない。

展示や館内案内において一部英語表記があるが、展示の内容やその背景にあるストーリーを深く理解してもらうための多言語解説は十分でない。

また、館内 Wi-Fi は1階の限られた場所ではしか使えず、使用できる時間の制限もある。(キャッシュレス対応レジは導入済)

展示内容についても、外国人観光客が主要コンテンツを体感できるような魅力あるものにすることが必要である。

課題5 ミュージアムの認知度・存在感が十分でない。

県民の中でもミュージアムを訪問したことがない方が相当数いる状況である(県政モニターアンケートによると、施設を知らない方が約1割、施設があるのは知っているが行ったことがない方が約3割)。ミュージアムに統合された当初の来館者数は17万人を超えていたが(最大人数は平成21年度の179,022人)、その後、減少傾向となっている。

ミュージアムホームページは香川県ホームページに組み込まれているため共通様式に従わざるを得ず、見やすく関心を引く内容とは言い難い。加えて、SNSを活用した情報発信に努めているが、広報の専門家はおらず、職員で行う現在の体制には限界がある。

課題6 他の文化施設や観光施設・観光事業者等との連携が不足しており、立地のよさを活かしきれていない。

隣接する玉藻公園や栗林公園、高松市美術館との相互割引や収蔵品貸借を行うなど一部連携を行っているが、連携していることについて周知が不足しており、連携のメリットを活かしきれていない。

ミュージアム自体は主要交通拠点や高松中央商店街から徒歩圏内ではあるが、観光客が来館しやすくなるよう、交通アクセスを向上する必要がある。また、既存路線バスや電車の本数に限りがあり、周辺地域や連携施設との間での周遊性は必ずしも高くない。

3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

取組強化事項1: 1階のゲートウェイ化(課題1・2関係)

現在活用が十分でない1階を、ミュージアム内におけるゲートウェイ＝「行きし・いにしのよりどころ」と位置付け、気楽に入ることができ、好きなもの・おもしろいものを見つける場、ゆったり寛いで過ごせる場、時間調整の場とすることで、若年層、歴史や美術にあまりなじみのない方や外国人観光客を含む観光客といった、これまでミュージアムに縁の薄かった層の来訪を増やす。

1階のガイダンスを見て、館内の展覧会やコンテンツについてもっと深く知りたい方は2・3階の展示室に向かい、館外の文化資源に興味を抱いた方は外に出ていき、場合によっては観光の途中や最後に戻ってくるといった、訪問者が思い思いに、香川県の文化資源を巡る自分だけの「ゆるぎたるぎ」旅を組み立てられるよう、自由度の高い選択肢を提案することで、自分にとっての何かを発見する感覚を持てるような上質な体験価値を提供する。

具体的には、エントランスゾーンとして、初めて来訪する観光客が主要コンテンツを中心とした香川県の文化資源について気軽に触れることのできるガイダンス機能を持った開けた空間を創る。ライブラリーゾーンとして、現在は学習スペースというイメージを持たれている図書コーナーについて、来館者が気軽に立ち寄り、寛いだり、来館者同士や学芸員とコミュニケーションしたりすることができる飲食可能なオープンスペースとし、ミュージアムカフェの機能拡張により、当該エリアでも軽食メニューを提供する。あわせて、エントランスゾーンのガイダンスとリンクした文化資源に関する簡潔な解説パネルをライブラリーゾーンの壁面に掲示したり、テーブルの間に配置したりするなど、来館者が文化資源に関する情報をブラウジングできる空間を造成し、館内の展示室や他の文化観光エリアへの送客につなげる。

ミュージアムが持続可能な運営を行うための重要な収入源となるミュージアムショップ、カフェについても、ディスプレイや内装について他の空間と統一感を持たせ、コレクションや展示と連動したグッズや飲食メニューを一体開発する。

さらに、普段、ミュージアムに足を運ばない観光客の来訪を促すため、主要交通拠点や商店街等からミュージアムへのアクセスが容易となるように案内サインを掲示したり、建物の位置が分かりやすくなるようにコレクションを活かした懸垂幕などの大型サインを建物壁面に掲示したりする。

また、外国人観光客も含めて増加傾向にある四国遍路を目的に来県する観光客を対象に、納経帳や御朱印帳を提示した方に空海や四国遍路をモチーフとしたノベルティを配付するなど、お遍路さんへの「お接待」を行うことで来館を促し、「お遍路さんが立ち寄るミュージアム」として、香川ならではのユニークな魅力を創出する。

取組強化事項２：展示内容の強化（課題１関係）

歴史博物館と美術館の機能を併せ持つ施設であるという特長を最大限活かし、来訪者が香川ならではの風土や文化、歴史について総合的に知ることができるよう、歴史分野と美術分野の展示を融合させ、多様な視点から魅力を発信できるような展示を行う。

時期を問わず主要コンテンツを中心とした文化資源への理解を深められる常設展示について、既存の展示をベースとしつつ、部分改修や美術要素を取り込むことにより展示の魅力を増進させる。

具体的には、歴史展示室では香川県の通史を通観できる唯一の施設であるという特徴は維持しながら、展示資料と県内の文化観光資源を結びつけて観覧後の周遊につながるような解説パネル等や、観光客が親しみやすいテーマを切り口とした導入的な展示解説を追加する。さらに、現在の展示が近代以降の美術を対象外とし、時代も昭和 30 年頃までとなっているため、県内のモダニズム建築などに関わる内容を盛り込み、現在の香川県の文化芸術につながる流れを理解しやすいようにする。

空海室では国内外からの観覧者が理解を深められるよう展示室導入のガイダンス機能を充実させる。讃岐出身の空海が、日本の歴史や文化に大きな影響を与え、弘法大師信仰の広がりがある現在にも続く四国遍路という四国独自の文化形成に連なっていることについて、国内外からの観覧者が理解を深められるよう取り組む。

また、コンセプトに沿い、高松城や栗林公園（主要コンテンツ「海に開かれた都市（まち）・高松」）、四国遍路や金毘羅参詣（同「空海とこんびらさん」）、館の周辺にある戦後建築（同「まちに溶け込むモダニズム建築」）を紹介する展覧会といった歴史文化・美術に関する自主企画展を開催する。加えて、他分野の視点を取り入れたり、集客力の高い展覧会も組み入れたりすることで、観光客や若年層の誘客も図るとともに、ライトに観覧を楽しみたい客層向けに感覚的に楽しめる展示も導入する。

高精細データを含む収蔵品に関する情報発信を行い、また、収蔵品展示の際に明確なストーリー性を持たせ、分かりやすい作品解説を充実させる。

取組強化事項３：体験型コンテンツの充実・文化資源周遊促進（課題３関係）

体験を通して来館者が館内展示や香川の歴史・文化に対するより深い理解を得られるよう、伝統工芸品制作体験などのワークショップの充実や解説を聞きながら調理・食事の体験を行う食文化体験講座を実施する。

また、来館者を深い鑑賞と展示への理解に導き、県内随所に散りばめられた主要コンテンツを中心とした文化資源に対する新たな気づきを与えるため、まち歩きガイドツアー等の館外実施プログラムを造成し、デジタルマップや書込みを行うことでオリジナルを作成できるペーパーマップを活用しながら、来館者の文化資源周遊を促進する。館外実施プログラムについては、まずは、高松市が実施するレンタサイクル事業の実施区域に重なる「海に開かれた都市（まち）・高松」エリアを対象にし、同エリアに多く点在する「まちに溶け込むモダニズム建築」、さらに、四国遍路や金毘羅参詣に関連する「空海とこんびらさん」をテーマとした周遊プログラム等を造成する。

取組強化事項４：外国人観光客の受入環境整備の強化（課題４関係）

外国人旅行者の立場に立ち、観光庁の『How to 多言語解説文整備』に沿いながら、基礎的な背景知識を加えた分かりやすい解説作成、スマートフォンを活用した文字や音声による解説ツール（ブラウザ型を想定）導入などの多言語化対応を行う。また、外国人観光客の利便増進やデジタルコンテンツの拡充等に活用するため全館を対象とした Wi-Fi 整備を行うとともに、空港リムジンバスの路線延伸や大型コインロッカーの館外設置を行う。

展示内容についても、外国人観光客が文字情報のみに頼るのではなく五感を通じてその魅力を体感できるものを増やす。

取組強化事項５：広報の強化（課題５関係）

分かりやすく、閲覧者の関心を引き視覚的に楽しめるような新規の公式ホームページの作成（多言語対応含む。）、主要交通拠点、商店街等の周辺施設でのポスター掲出やデジタルサイネージ設置、若年層が情報収集に使うことが多い SNS を活用した発信の拡充など広報の充実を行う。あわせて、ミュージアムの広

報力を強化するため、美術館、博物館の広報に長けた人材の確保や、職員の育成、専門家との連携等により広報体制を確立する。

また、主要交通拠点や商店街等からのミュージアムのアクセスが容易となるよう、案内サインや建物サインを掲示する（再掲）。

さらに、県外からの観光客やコアターゲットである欧米豪からの観光客の確保に向け、公益社団法人香川県観光協会等の観光 DMO と連携したプロモーションを行うとともに、来県外国人観光客の上位を占める、高松空港からの直行国際便が運航している韓国、香港、台湾、中国においてもプロモーションを行う。

取組強化事項 6：他施設・観光事業者等との連携の強化（課題 3・6 関係）

相互割引や共通券に加え、他施設や観光事業者等と連携し、まち歩きガイドツアーの実施や、夜間開館、館周辺・エントランスの演出照明とともに、学芸員トークやコンサートなどの展覧会にちなんだ夜間限定プログラムを行うことでナイトタイムエコノミー活性化の取組みなどを行う。

また、ミュージアムへの交通アクセスを向上するために、空港リムジンバスの路線延伸（再掲）や既存路線バスの新たな最寄りのバス停の設置、連携施設間の乗合タクシー運行を行う。

さらに、文化資源の周遊や主要交通拠点との間の移動が容易となるよう、レンタサイクルを活用する（再掲）。

外国人観光客を含む観光客が多く訪れる瀬戸内国際芸術祭の開催期間においては、県瀬戸内国際芸術祭推進課と連携しながら、瀬戸内国際芸術祭のコンセプトに沿った、親和性の高い特別展を開催するとともに、高松港での観光客への PR や、同港からミュージアムへのシャトルバスの運行を行い、ミュージアムの夜間開館を組み合わせることで、ミュージアムへの来訪につなげる。また、瀬戸内国際芸術祭の作品鑑賞パスポートの提示によりミュージアムを割引で利用できるよう、瀬戸内国際芸術祭実行委員会と調整を行う。

これらの取組みについて効果測定を実施し必要な改善を随時行うこと（PDCA サイクル）により、より効果的にミュージアムの来館者数を増加させていく。

3-4. 地域における文化観光の推進への貢献

- ・現状において、ミュージアム来館者の主な訪問目的は 2・3 階の展示観覧であり、周辺施設との周遊が十分に図られていない。また、JR 高松駅、高松港、空港リムジンバス停が徒歩圏内にあるものの、外国人観光客を含む観光客を誘引できていない。
- ・本計画に基づき、ミュージアム 1 階をゲートウェイ化することで、旅行者が気軽に立ち寄り、旅行の満足度が向上する空間「行きし・いにしへのよりどころ」を創出する。その中で、初めて来訪する観光客が、「海に開かれた都市（まち）・高松」「空海とこんぴらさん」「まちに溶け込むモダンイズム建築」の三本柱を中心とした香川県の文化資源について気軽に触れることのできるガイダンス機能を設ける。
- ・「海に開かれた都市（まち）・高松」エリアを中心に、他施設や観光事業者等と連携し、まち歩きガイドツアー、夜間開館や館内プログラムによるナイトタイムエコノミー活性化の取組みや連携展覧会などを行うことで、感度の高い観光客の取込みを図る。
- ・これらの取組みにより、ミュージアムを来訪した観光客が主要コンテンツを中心とした香川県の文化資源の存在をまず知り、興味を引かれ、ミュージアム内外で実際に体感することにより、理解や関心を深めていただくことで、地域の周遊を促進し、滞在時間の延長やリピーターの増加につなげ、経済波及効果を図る。
- ・ミュージアムがその区域に含まれるサンポート高松地区では、都市再生整備計画に基づき、四季を通して快適に歩ける空間の創出（プロムナード化）による地区の回遊性向上や道路環境の整備による自動車交通の快適性向上のための整備が進められており、新たな人流が生まれることによる相乗効果が期待できる。

3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

- ・令和 5 年 3 月に策定した「香川県文化芸術振興計画」（令和 5 年度～令和 9 年度）では、「まちにくらしに文化芸術があふれ、みんながきらめく香川をつくる」を目標に掲げ、基本的な方針「文化芸術を担う人づくり」「文化芸術を育む環境づくり」「文化芸術による地域づくり」に基づき、文化振興を進めている。
- ・本計画に基づく取組みの実施により、来館者数を増加させることで観覧料の増収を、オリジナル商品開

発などミュージアムショップを拡充させることでショップ売上げの増収を図る。増収分はミュージアムにおける魅力ある展示の強化や設備の充実、来館者サービスの向上に活用し（文化芸術を育む環境づくり）、文化観光事業の継続性を担保する。

- 気軽に香川県の文化芸術に触れられる1階ゲートウェイ「行きし・いにしのよりどころ」、多彩な展示やワークショップ実施などにより、県民、特に、子どもや若者が文化芸術に触れ創造性を育む機会を充実させ（文化芸術を担う人づくり）、文化芸術を担う人材の育成を強化し、裾野を広げる。
- また、外国人観光客を含む観光客を1階ゲートウェイ「行きし・いにしのよりどころ」に誘引し、香川県の文化資源への理解や関心を深めていただくことで観光振興を図り、他施設や観光事業者等と連携して地域の周遊を促進し、商店街や周辺の飲食店等への経済波及効果を高めることで、持続可能な地域の活性化につなげる（文化芸術による地域づくり）。
- 文化振興への再投資として、マネタイズの観点から、ミュージアム増収分を原資として、文化芸術の振興に資する事業の財源に充てるために設置されている香川県文化芸術振興基金への積立てや予算への上乗せ、また、企業版ふるさと納税制度など民間活力の活用を検討する。加えて、香川県の文化芸術を担う人材の拡大と底上げや文化芸術の関係人口増加を実現する。
- これらにより、すでに在るものを活かしながら新たなものを組み合わせた、新しい「文化」が創造され、「螺旋」に新たな層が積み重なることにつなげていく。

4. 目標

目標①：ミュージアム展覧会観覧者数（課題１・５関連、取組強化事項２・５関連）							
（目標値の設定の考え方及び把握方法） ・香川県の総合計画の指標である「県外観光客数」の目標値（R7）設定に合わせ、R7年度において、コロナ影響前（R1年度）の常設展及び特別展の観覧者数の合計（98,477人）の５％増とし、以降前年度比で１％ずつ増加するよう各年度の目標値を設定 - R7：R1実績値の105％、R8：R7目標値の106％、R9：R8目標値の107％、R10：R9目標値の108％ ・利用者数は、各利用窓口でのカウントにより把握							
年度	実績		目標				
	R1	R5	R6（2024）	R7（2025）	R8（2026）	R9（2027）	R10（2028）
目標値（人）	98,477	65,505	75,000	103,000	109,000	116,000	125,000
事業１－②： 歴史展示室展示強化事業				・展示強化の方針検討	・三本柱を中心とした展示の強化 ・映像コンテンツ作成、活用	・映像コンテンツ作成、継続活用	・映像コンテンツ作成、継続活用
事業１－④： 主要な文化資源をテーマとした展覧会実施事業				・主要な文化資源をテーマとした展覧会の実施	・主要な文化資源をテーマとした展覧会の実施	・主要な文化資源をテーマとした展覧会の実施	・主要な文化資源をテーマとした展覧会の実施
事業１－⑤： デジタルコレクション充実事業			・データベースシステム改修仕様検討 ・収蔵品デジタルデータ作成	・データベースシステム改修仕様検討 ・収蔵品デジタルデータ作成	・データベースシステム改修、運用 ・収蔵品デジタルデータ作成	・データベースシステム運用 ・収蔵品デジタルデータ作成	・データベースシステム運用 ・収蔵品デジタルデータ作成
事業５－②： 観光客に訴求力のある公式ホームページ開設事業			・新ホームページ仕様検討	・新ホームページ作成・運用	・新ホームページ運用	・新ホームページ運用	・新ホームページ運用
事業６－②： 展示環境改善のための整備事業			・可動ケースLED化改修	・展示室照明LED化	・展示室照明LED化 ・歴史展示室改修（展示配置替に	・展示室照明LED化 ・２階展示室クロス貼替え	・歴史展示室モニター整備

					伴う改修、クロス貼替え等) ・歴史展示室モニター整備	・歴史展示室モニター整備	
--	--	--	--	--	-------------------------------	--------------	--

目標②：ミュージアム展覧会観覧者数（国外）（課題１・４・５関連、取組強化事項２・４・５関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

- ・R5年度に実施した常設展アンケートの回答状況から、R5年度の実績を全体の１％（650人）と推計し、R7年度以降、目標①の目標値に対する割合が0.5％ずつ増加するよう、各年度の目標値を設定（※R1年度の実績は、R5年度と同程度（全体の１％）と推計）
 R7：目標①の1.5％、R8：同２％、R9：同2.5％、R10：同３％
- ・利用者数は、多言語リーフレットの配布数やアンケート（WEB上での展開含む。）等により把握
- ・計画から10年後の令和15年度には、コロナ影響前（R1年度）の推計値980人に対し、約5.5倍の5,500人となることを目指す。

年度	実績		目標				
	R1	R5	R6（2024）	R7（2025）	R8（2026）	R9（2027）	R10（2028）
目標値（人）	980※	650	750	1,500	2,100	2,900	3,700
事業１－③： 空海室展示強化事業			・展示強化の方針検討	・展示室導入のガイドダンス機能強化	・展示室導入のガイドダンス機能強化		
事業５－①： 認知度向上のための広報強化事業			・広報手段の拡充 ・観光DMOと連携したPR	・広報体制の確立 ・広報手段の拡充 ・観光DMOと連携したPR	・広報体制の確立 ・広報手段の拡充 ・観光DMOと連携したPR	・広報体制の確立 ・広報手段の拡充 ・観光DMOと連携したPR	・広報体制の確立 ・広報手段の拡充 ・観光DMOと連携したPR

目標③：来館者の満足度（課題３関連、取組強化事項３・６関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

- ・目標値は、R5年度常設展期間中のアンケートにおける感想「非常によかった」の割合を基準に、「非常によかった」の合計割合＋３％／年で設定
- ・満足度は、常設の館内アンケート、特別展のアンケートにより把握
 ※世界最大級の旅行プラットフォームであるトリップアドバイザーの口コミ評価やレビューコメントも参考として、サービス向上に取り組む。

年度	実績		目標				
	R1	R5	R6（2024）	R7（2025）	R8（2026）	R9（2027）	R10（2028）
目標値（％）	—	38	41	44	47	50	53

事業２－②： デジタルコレクション活用事業				・詳細解説資料等としての活用 ・撮影スポット、フォトフレーム等の造成、活用	・詳細解説資料等としての活用 ・撮影スポット、フォトフレーム等の造成、活用	・詳細解説資料等としての活用 ・撮影スポット、フォトフレーム等の造成、活用	・詳細解説資料等としての活用 ・撮影スポット、フォトフレーム等の造成、活用
事業２－③： 文化資源周遊促進事業			・着付け体験の充実	・デジタルマップ仕様検討 ・まち歩きマップ仕様検討 ・着付け体験の充実	・まち歩きガイドツアー実施 ・デジタルマップ仕様検討 ・まち歩きマップ作成、配布 ・着付け体験の充実	・まち歩きガイドツアー実施 ・デジタルマップ作成、運用 ・まち歩きマップ配布 ・着付け体験の充実 ・館内見どころガイド作成、配布	・まち歩きガイドツアー実施 ・デジタルマップ運用 ・まち歩きマップ配布 ・着付け体験の充実 ・館内見どころガイド配布
事業２－④： 体験型コンテンツ充実事業				・体験型コンテンツ造成、実施	・体験型コンテンツ造成、実施	・体験型コンテンツ造成、実施	・体験型コンテンツ造成、実施

目標④：来館者の満足度（国外）（課題３・４関連、取組強化事項３・４・６関連）							
（目標値の設定の考え方及び把握方法） ・目標値は、R5 年度常設展期間中のアンケートにおける感想「非常によかった」の割合を基準に、「非常によかった」の合計割合＋２％／年で設定 ・満足度は、常設の館内アンケート、特別展のアンケートにより把握 ※世界最大級の旅行プラットフォームであるトリップアドバイザーの口コミ評価やレビューコメントも参考として、サービス向上に取り組む。							
年度	実績		目標				
	R1	R5	R6（2024）	R7（2025）	R8（2026）	R9（2027）	R10（2028）
目標値（％）	—	54	56	58	60	62	64
事業２－①： 展示解説多言語対応推進事業			・展示解説等の多言語対応	・展示解説等の多言語対応 ・スマートフォンを活用した解説ツール仕様検討	・展示解説等の多言語対応 ・スマートフォンを活用した解説ツール作成・運用	・展示解説等の多言語対応 ・スマートフォンを活用した解説ツール作成・運用	・展示解説等の多言語対応 ・スマートフォンを活用した解説ツール作成・運用
事業３－①： 観光客受入環境整備事業			・館内サイン、リーフレット多言語化	・館内サイン、リーフレット継続活用	・館内サイン、リーフレット継続活用	・館内サイン、リーフレット継続活用	・館内サイン、リーフレット継続活用

事業３－③： ナイトタイムエコノミー 活性化事業				・夜間開館 ・夜間限定プログラ ムの開催	・夜間開館 ・夜間限定プログラ ムの開催	・夜間開館 ・夜間限定プログラ ムの開催	・夜間開館 ・夜間限定プログラ ムの開催
--------------------------------	--	--	--	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

目標⑤：１階「よりどころ」来訪者数（延べ人数）（課題２・５・６関連、取組強化事項１・５・６関連）							
（目標値の設定の考え方及び把握方法） ・計画期間最終年度（R10年度）において、１階「よりどころ」の来訪者数が展覧会の観覧者数（目標値 68,000 人）（※）の 200%となるよう、各年度の目標値を設定（実績値：R1・R5 年度の無料ゾーン利用者数） R7：観覧者数の 125%、R8：同 150%、R9：同 175% ※ 特別展と同時期に開催される常設展については特別展チケットにより無料となり、特別展観覧者数と常設展観覧者数が重複するため、常設展観覧者数を基準とする（特別展観覧者数：常設展観覧者数＝１：1.2 で計算）。 ・利用者数は、エントランスゾーン（デジタルサイネージ前）、ライブラリーゾーン入口、シアター入口及びカフェ入口に設置するセンサー等により把握							
年度	実績		目標				
	R1	R5	R6（2024）	R7（2025）	R8（2026）	R9（2027）	R10（2028）
目標値（人） ＜常設展観覧者数＞	2,960	2,000	2,000 ＜40,000＞	70,000 ＜56,000＞	88,000 ＜59,000＞	110,000 ＜63,000＞	136,000 ＜68,000＞
事業１－①： ミュージアム１階ゲートウェイ化「行きし・いにしのよりどころ」整備事業			・フロアレイアウトの見直し ・コレクション展示 ・大型マップ作成、設置 ・解説パネル作成、設置	・コレクション展示 ・年表作成、掲示 ・大型マップ継続活用 ・解説パネル作成、継続活用	・コレクション展示 ・年表、大型マップ継続活用 ・解説パネル作成、継続活用 ・映像コンテンツ作成、公開	・コレクション展示 ・年表、大型マップ継続活用 ・解説パネル作成、継続活用 ・映像コンテンツ作成、公開	・コレクション展示 ・年表、大型マップ継続活用 ・解説パネル作成、継続活用 ・映像コンテンツ作成、公開
事業１－⑥： ミュージアム１階ゲートウェイ化「行きし・いにしのよりどころ」来訪促進事業				・「お遍路さんが立ち寄るミュージアム」としての仕掛けづくり	・「お遍路さんが立ち寄るミュージアム」としての仕掛けづくり ・「よりどころ」を始点・終点にした仕掛け	・「お遍路さんが立ち寄るミュージアム」としての仕掛けづくり ・「よりどころ」を始点・終点にした仕掛け	・「お遍路さんが立ち寄るミュージアム」としての仕掛けづくり ・「よりどころ」を始点・終点にした仕掛け

事業３－②： 交通アクセス・周遊性 向上事業			・空港リムジンバス 路線延伸準備 ・路線バスのバス停 設置準備	・空港リムジンバス 路線延伸（以後継 続） ・路線バスのバス停 設置（以後継続） ・高松港からのシャ トルバス運行 ・連携施設間の乗合 タクシー運行 ・レンタサイクルの 活用	・高松港からのシャ トルバス運行 ・連携施設間の乗合 タクシー運行 ・レンタサイクルの 活用	・高松港からのシャ トルバス運行 ・連携施設間の乗合 タクシー運行 ・レンタサイクルの 活用	
事業４－②： ミュージアムカフェ魅 力向上事業				・来館の契機となる カフェづくり ・カフェ機能の拡張	・来館の契機となる カフェづくり ・カフェ機能の拡張	・来館の契機となる カフェづくり ・カフェ機能の拡張	・来館の契機となる カフェづくり ・カフェ機能の拡張
事業６－①： ゲートウェイ機能付加 のための整備事業				・古式畳、円座設置 ・館周辺、エントラ ンス演出照明造成 ・人数計測センサー 設置	・デジタルサイネー ジ設置 ・家具設置 ・古式畳、円座継続 活用 ・建物サイン設置 ・館周辺、エントラ ンス演出照明継続 活用 ・人数計測センサー 運用	・デジタルサイネー ジ継続活用 ・家具、古式畳、円 座継続活用 ・フロアレイアウト 改修 ・建物サイン継続活 用 ・案内サイン設置 ・館周辺、エントラ ンス演出照明継続 活用 ・人数計測センサー 運用	・デジタルサイネー ジ継続活用 ・家具、古式畳、円 座継続活用 ・建物サイン、案内 サイン継続活用 ・館周辺、エントラ ンス演出照明継続 活用 ・人数計測センサー 運用

目標⑥：ミュージアムショップの売上げ（課題２関連、取組強化事項１関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

- ・大規模展の図録・グッズを除くミュージアムグッズの売上収入額について、計画期間最終年度（R10年度）において、コロナ影響前（R1年度）の売上収入額の30%増となるよう、各年度の目標値を設定（令和7年度以降）

年度	実績		目標				
	R1	R5	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)
目標値 (千円)	5,495	2,722	3,000	4,000	4,500	5,800	7,200
事業4－①： ミュージアムオリジナル商品開発・販売促進事業					・ミュージアムショップ空間の見直し	・オリジナル商品開発等	・オリジナル商品開発等
事業6－③： 観光客受入環境整備のための整備事業			・キャッシュレス対応レジ運用 ・全館 Wi-Fi 整備	・キャッシュレス対応レジ、全館 Wi-Fi 運用 ・コインロッカー設置・運用	・キャッシュレス対応レジ、全館 Wi-Fi 運用 ・コインロッカー運用	・キャッシュレス対応レジ、全館 Wi-Fi 運用 ・コインロッカー運用	・キャッシュレス対応レジ、全館 Wi-Fi 運用 ・コインロッカー運用

5. 目標の達成状況の評価

毎年度、県文化振興課が中心となり、ミュージアム、県観光振興課、公益社団法人香川県観光協会等と各目標の達成状況について確認・検証を行い、次年度以降の事業へとフィードバックしていく。

6. 文化資源保存活用施設

6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況

6-1-1. 現状の取組

1 文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

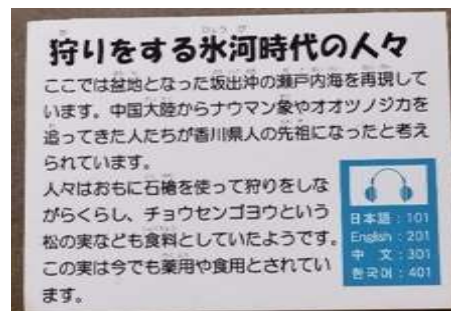
- ・歴史展示室では、個々の展示資料に解説付きキャプションを付け、写真や解説パネルを設置して、展示資料や時代の流れを理解できるようにしている。各時代を代表する建物や景観などを再現した大型展示物を展示するほか、イラスト中心やクイズ形式など分かりやすい解説パネル、見どころや詳しい解説を掲載した「瓦版」を設置・配布している。



- ・空海室、常設している高松松平家歴史資料（常設展示室1）については、解説シートを展示室で配布している。
- ・常設展（テーマ展）ごとに解説シートを作成し、アート・コレクションでは鑑賞カードを作成し、展示室で配布している。
- ・自主企画の特別展を開催し、展示品の解説や論考を掲載した図録を作成している。
- ・学芸員によるミュージアムトークやボランティアによるギャラリートーク、歴史展示室の解説を実施している。

2 情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

- ・歴史展示室では、歴史の流れを理解しやすいように、香川県ゆかりの人物が語り部として登場する、各時代のガイダンス映像を設置している。
- ・時代ごとに、特徴的な資料や出来事を紹介する映像を複数作成し、タッチパネル式のモニターで番組を選んで視聴できるようにしている（詳覧映像）。
- ・「高松城下図屏風」のCGと現在の高松の商店街の様子を組み合わせた映像「高松城下を歩く」を「高松城下図屏風」のレプリカの隣に設置している。
- ・コーナーごとの解説を聞ける音声ガイド機器を無料で貸し出している。
- ・香川県ホームページから外部サイトにつながる館蔵品データベースで44,613件（うち画像あり19,307件）、Google Arts & Cultureで52件、文化遺産オンラインで83件を紹介している。



3 外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号） ・館内案内やキャプション等に一部英語表記がある。 ・歴史展示室で外国語対応のガイド機器を貸し出している。
6-1-2. 本計画における取組
1 文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号） ・ミュージアム1階「行きし・いにしのよりどころ」において、エントランスゾーンに香川県の文化観光資源の三本柱を中心とした香川県の文化資源について気軽に触れることのできるガイダンス機能を持った空間を創り、目で楽しめるようにする。ライブラリーゾーンでは、エントランスゾーンで示すコレクション展示や年表などとリンクした文化資源に関する簡潔な解説パネルを設置し、来館者が文化資源に関する情報をブラウジングできる空間を造成し、寛ぎながら情報に触れることができるようにする。 ・歴史展示室について、展示資料と県内の文化観光資源を結びつけて観覧後の周遊につながるような解説パネル等や、観光客が親しみやすいテーマを切り口とした導入的な展示解説を追加する。さらに、現在の展示が近代以降の美術を対象外とし、時代も昭和30年頃までとなっているため、県内のモダニズム建築などに関わる内容を盛り込み、現在の香川県の文化芸術につながる流れを理解しやすいようにする。 ・空海室について、現在の展示室空間を活かしながら、展示室導入のガイダンス機能を充実させる。讃岐出身の空海が、日本の歴史や文化に大きな影響を与え、弘法大師信仰の広がりや現在にも続く四国遍路という四国独自の文化形成に連なっていることについて、国内外からの観覧者が理解を深められるよう取り組む。 2 情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号） ・計画的にデジタル画像の撮影を行い、主要な文化資源に関する収蔵品については高精細デジタル撮影を行うとともにデータベースに詳細な解説を入力しておき、展示室内の解説キャプションと連動させ、展示室で詳細な情報を求める観覧者への解説資料として活用する。 ・「高松城下図屏風」や「栗林図」等の描写の細かい収蔵品については、高精細画像を用い、展示に合わせて写真や動画などで細部を紹介したり、講座等で参加者に見せながら資料を解説したりする際に活用する。 ・観光客に対して訴求力のある公式ホームページを新規に作成・公開するとともに、ウェブサイト上や展示期間外でもミュージアム収蔵品の魅力を楽しめるようなコンテンツを造成する。 3 外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号） ・外国人旅行者の立場に立ち、観光庁の『How to 多言語解説文整備』に沿いながら、基礎的な背景知識を加えた分かりやすい解説作成、スマートフォンを活用した文字や音声による解説ツール（ブラウザ型を想定）導入などの多言語化対応を行う。また、「やさしい日本語」や多言語指差しボードの活用を含め、より多くのスタッフが対応できる方法を構築する。
6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携
6-2-1. 現状の取組
1 文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築 一部の施設との間では、観覧料（入園料）の相互割引や収蔵品貸借を行っているが、公益社団法人香川県観光協会とは連携体制の構築はできていない。 2 文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析 ミュージアム単体では、月ごとの来館者数、特別展ごとの入場者数を集計し、特別展の一定期間において、アンケート調査を実施しているが、観光関係データを用いていない。 3 文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立 特になし

6-2-2. 本計画における取組
1 文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築 公益社団法人香川県観光協会と連携体制を構築し、観光客の確保に向けた国内外へのプロモーションやナイトタイムエコノミー活性化の夜間限定プログラムといった観光分野を中心に、本計画に基づく各事業や取組みについて、密接に連携・情報共有を行いながら、円滑に進めていくこととする。 2 文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析 来館者アンケートについては、特別展の期間中以外にも随時調査を行いながら、観光関係データを組み合わせて分析を行い、次年度以降の事業に活かしていく。 3 文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立 ・本計画において設定したKPIに基づき、毎年度達成状況を検証する。また、公益社団法人香川県観光協会や他の共同申請者、庁内関係課と計画の進捗状況などの情報共有や改善に向けた具体的な協議を行うなど、PDCAサイクルにより効果的な事業展開を図る。
6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携
6-3-1. 現状の取組
1 文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施 高松中央商店街において、ポスター掲示やチラシ設置等の広報協力をしていただいている。
6-3-2. 本計画における取組
1 文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施 ・高松空港リムジンバスの路線延伸、高松港からのシャトルバスの運行、連携施設間の乗合タクシー運行による交通アクセスを向上するとともに、二次交通整備として、高松市が実施しているレンタサイクル事業を活用する。 ・ミュージアムショップの販売促進のため、お土産として手に取りやすいオリジナルの菓子類や、文化資源の特色を活かした観光客に訴求力のあるグッズを、一般財団法人かがわ県産品振興機構等と連携して開発する。 ・高松中央商店街において、懸垂幕やデジタルサイネージの設置など、さらに広報の充実を図る。 ・将来的には、宿泊施設や旅行会社などと連携し、文化観光に関する宿泊プランや旅行プラン造成を検討していく。

7. 文化観光拠点施設機能強化事業

7-1. 事業の内容

7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業

(事業番号 1-①)

事業名	ミュージアム1階ゲートウェイ化「行きし・いにしのよりどころ」整備事業
事業内容	歴史博物館と美術館の機能を併せ持つミュージアムの特性を活かし、来館者が、瀬戸内海が育んだ豊かな環境の中で、香川のさまざまな文化が、すでにあるものを活かしつつ新たなものを柔軟に受け入れながら生み出されてきたストーリーを五感で体感できる空間を演出するとともに、文化観光のゲートウェイ（＝「よりどころ」）として、旅行者が目的地の「行きし、往にし」（「タビマエ」「タビナカ」「タビアト」）に気軽に立ち寄り、旅行の満足度が向上するような場所を創出する。 その手法として、空間デザインの専門家の助言を得ながら、アナログ・デジタル双方の手法を活用したフロアレイアウトの見直しを行う。あわせて、その空間の中でグッズ購入や飲食を一体的に楽しめるよう、ミュージアムショップの見直しやミュージアムカフェの機能拡張を含めた検討を行う。 (1) エントランスゾーン—目で楽しむ ・総合案内カウンター及び観覧券売場を中央に配置し、東西出入口からの来館者を迎え、館内・館外へ適切に案内する機能を持たせる。 ・広く明るい吹き抜け構造を活かし、初めて来訪する観光客が、「海に開かれた都市（まち）・高松」「空海とこんぴらさん」「まちに溶け込むモダニズム建築」の三本柱を中心とした香川県の文化資源について気軽に触れることのできるガイダンス機能を持った空間を創る。 ・香川県の文化資源や文化観光エリアに関する情報をインタラクティブに検索・閲覧することができるデジタルサイネージの設置（6-①に計上）やコレクション展示等、視覚から観光客の関心を引くような仕掛けづくりを検討する。 ・文化資源や文化観光施設が一覧できる大型マップのほか、香川県の文化芸術の発展の流れが分かる年表の展示、展覧会などの館内コンテンツに関するポスター等の掲示など、館内外への送客を促す仕掛けづくりに取り組む。 (2) ライブラリーゾーン—寛ぎながら情報に触れる ・現在の図書コーナーの学習スペースというイメージを払拭し、香川県の特色ある家具を活用し、来館者が気軽に立ち寄り、寛いだり、来館者同士や学芸員とコミュニケーションしたりすることができる、飲食可能なオープンスペースとする。あわせて、4-②で行うミュージアムカフェの機能拡張により、当該エリアでも軽食メニューを提供する。書籍等を閲覧するエリアについては飲食禁止とするなど、ゾーニングを行う。 ・(1)のコレクション展示や年表などとリンクした文化資源に関する簡潔な解説パネルをライブラリーゾーンの壁面に掲示したりテーブルの間に配置したりするなど、来館者が寛ぎながら文化資源に関する情報をブラウジングできる空間を造成し、館内の展示室や他の文化観光エリアへの送客につなげる。 ・観光客がミュージアムからさまざまな文化観光エリアへ足を運びたいとなるとともに、訪れた場所についてさらに知識を深められるよう、香川の建築をはじめとした香川県の文化資源に関する書籍等を取り揃える。 (3) 体験学習室 ・板間に香川の伝統工芸の古式畳や円座を設置（6-①に計上）するなど、靴を脱いで床に座る体験をしながら休憩できるスペースとしての活用も検討する。 ・現在も実施している着付け体験について、貸衣装業者等の協力を得ながら、着付けできる衣装の種類を充実させる。また、記念撮影用の場所の整備や、玉藻公園と連携し、着付け体験と公園内での写真撮影をセットにしたパッケージプランの設定など、外国人観光客に訴求力のある体験メニューを造成する。 ・現在は昔のおもちゃを中心に設置しているが、美術作品の理解につながるものや伝統工芸品など触れられるものの種類を増やし、歴史・美術の「体験学習」の内容を充実させる。

実施主体	香川県
実施時期	令和6年度～令和10年度
継続見込	計画終了後も研究・実践を重ねて改善を継続するとともに、一般財源や観覧料収入等を財源として空間の維持管理及びさらなる魅力向上にも継続的に取り組む。
アウトプット 目標	・フロアレイアウト改修案作成（令和6年度） ・解説パネル・映像コンテンツ等作成
必要資金 調達方法	6.5百万円（内訳：2.15百万円（一般財源） 4.35百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号1－②）

事業名	歴史展示室展示強化事業
事業内容	香川県の歴史に関する歴史展示室について、香川県の主要な文化資源に関する展示解説を強化する。 ・香川県の通史を通観できる唯一の施設であるという特徴は維持しながら、文化観光資源の三本柱「海に開かれた都市（まち）・高松」「空海とこんぴらさん」「まちに溶け込むモダニズム建築」に特に重点を置き、これらの文化の成り立ちや発展の歴史について理解を深め、展示資料と県内の文化観光資源を結びつけて観覧後の周遊につながるような、解説パネル等を追加する。 ・現在の展示が近代以降の美術を対象外とし、時代も昭和30年頃までとなっているため、香川県立工芸学校の設立、香川県美術展覧会（県展）のはじまり、県内のモダニズム建築などに関わる内容（作家や作品の紹介）を通史の中に盛り込み、現在の香川県の文化芸術につながる流れを理解しやすいようにする。 ・高松城跡を一望できる休憩コーナー（現香川用水コーナー）を、「海に開かれた都市（まち）・高松」の関連展示コーナーとして活用できるようリニューアルする。 ・各時代のガイダンス映像「歴史ショーステージ」、高松城下図屏風に描かれた内容をCGと紹介する映像「高松城下を歩く」について、英語の字幕や西暦表記を追加し外国人観光客が見ても理解できるようにする。「高松城下を歩く」については、商店街の映像を最近のものに差し替えるなどの編集を行う。 ・来館者は香川県の歴史・文化の初心者であることを前提に、「うどん」「瀬戸内海」などの観光客が親しみやすい香川県らしいテーマを切り口とした導入的な展示解説を追加する。 ・特に、近現代のコーナーについては対象とする時代・分野を広げる必要があるため、全体の配置を再調整する。既存の展示をベースとしつつ、項目の変更、それに伴う展示物・解説パネル・キャプションの入替え等、一部リニューアルも含めた展示手法・空間のブラッシュアップを行う（6－②に計上）。
実施主体	香川県
実施時期	令和7年度～令和10年度
継続見込	計画期間終了後も、一般財源及び観覧料収入等を財源とし、コレクションの展示活用を継続する。
アウトプット 目標	・三本柱を中心とした展示の強化（展示解説追加や展示配置替等）（令和8年度） ・映像コンテンツ作成（令和8～10年度）
必要資金 調達方法	13百万円（内訳：4.33百万円（観覧料） 8.67百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 1-③)

事業名	空海室展示強化事業
事業内容	弘法大師空海の生涯と事績を紹介する空海室（常設展示室 3）について、四国遍路を目的に訪れる観光客をメインターゲットに、空海に関する概説や四国遍路との係わりを紹介する展示を充実させる。 ・現在の展示空間を活かしながら、展示室導入のガイダンス機能を充実させる。讃岐出身の空海が、日本の歴史や文化に大きな影響を与え、弘法大師信仰の広がりが現在にも続く四国遍路という四国独自の文化形成に連なっていることについて、国内外からの観覧者が理解を深められるよう取り組む。 ・また、四国遍路は外国人観光客に対する訴求力が非常に高いコンテンツであることから、重点的に多言語対応に取り組む（2-①と関連）。 ・さらに、ミュージアムは、第 83 番札所・神皇山大宝院一宮寺と第 84 番札所・南面山千光院屋島寺との間に位置することから、お遍路さんを中心に、札所を巡る途中でミュージアムに立ち寄るインセンティブを高めるような仕掛けづくりに取り組む（1-⑥と関連）。 ※ 展示室改修は 6-②に計上
実施主体	香川県
実施時期	令和 6 年度～令和 8 年度
継続見込	計画期間終了後も、一般財源及び観覧料収入等を財源とし、コレクションの展示活用を継続する。
アウトプット 目標	・展示室導入のガイダンス機能充実（令和 7 年度・8 年度）
必要資金 調達方法	8 百万円（内訳：2.66 百万円（観覧料） 5.34 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 1-④)

事業名	主要な文化資源をテーマとした展覧会実施事業
事業内容	1-①のゲートウェイでの案内や展示を補完・充実させるため、三本柱を中心とした主要な文化資源をテーマとして、関連する文化施設や観光スポット等と連携した展覧会を開催する。 ○高松城、栗林公園、屋島、四国遍路、金毘羅参詣などをテーマとした展覧会 ○館の周辺にある戦後建築を紹介する展覧会 ○香川漆芸をテーマとした展覧会（漆芸研究所や高松市美術館との連携も検討） ○瀬戸内国際芸術祭と連携した展覧会
実施主体	香川県
実施時期	令和 7 年度～令和 10 年度
継続見込	計画期間終了後も、一般財源及び観覧料収入等を財源とし、コレクションの展示活用を継続するとともに、関連する文化施設や観光スポットとの間で、観光客の周遊促進を図る。特別展として開催する際は積極的に助成金や補助金等の獲得を目指す。
アウトプット 目標	・主要な文化資源をテーマとした展覧会（令和 7 年度以降、1 回／年）
必要資金 調達方法	20 百万円（内訳：6.68 百万円（観覧料） 13.32 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 1-⑤)

事業名	デジタルコレクション充実事業
事業内容	コレクションの管理及び利用者端末からの公開検索ができるデータベースシステムの充実を図るとともに、コレクションの効果的な情報発信に活用する。 (1) データベースシステムの改修及び収蔵品のデジタル・アーカイブ充実 - 計画終了後も中長期的に維持管理を行っていくため、既存のデータベースシステムについて、持続性と利便性の高いシステムに改修するとともに、(2)で作成する収蔵品のデジタルデータについて作品情報の入力を実行的に行う。 (2) 収蔵品のデジタル画像データの作成 33万点を超える収蔵品について、既存のデジタル画像データも活用しながら、計画的にデジタル画像の撮影を行うとともに、「高松城下図屏風」や「高松松平家博物図譜」といった主要な文化資源に関する収蔵品については、高精細デジタル撮影を行う（活用については2-②）。 - 高精細画像や関連諸データ等の容量の増大に対応するため、NASを増設する（6-②に計上）。
実施主体	香川県
実施時期	令和6年度～令和10年度
継続見込	計画終了後のシステム管理は県で行い、コンテンツを随時追加して各種事業や情報発信に継続的に活用する。
アウトプット目標	- 主要な収蔵品の高精細デジタル撮影（令和6年度：20件程度、令和7年度以降：毎年50件程度） - 収蔵品のデジタルデータ作成（令和7年度以降） - 改修版データベースシステム運用（令和8年度以降）
必要資金調達方法	31.39百万円（内訳：11.45百万円（一般財源） 19.94百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 1-⑥)

事業名	ミュージアム1階ゲートウェイ化「行きし・いにしのよりどころ」来訪促進事業
事業内容	観光客が「行きし」にゲートウェイへ立ち寄り、館内の展示室や県内のさまざまな文化観光エリアを訪れ、「往にし」にもゲートウェイへ来訪するという文化観光の流れを創出することを目指し、観光客の来訪を促すための事業を行う。 また、観光客を引き込む導線を作るため、建物外観や周辺のリデザインを行う。 (1) 「行きし」に寄る仕掛けづくり - 主要交通拠点や商店街等からミュージアムへのアクセスが容易となるよう、QRコード付きの案内サインを掲示する（6-①に計上）。 - 建物西側（JR高松駅、高松港方面）、南側（商店街方面）から建物の位置を分かりやすくするとともに、コレクションを活かした、普段来訪しない観光客を引き付けるようなデザインの懸垂幕などの大型サインの掲示を検討する（6-①に計上）。 (2) 「お遍路さんが立ち寄るミュージアム」としての仕掛けづくり - 四国遍路を目的に来県する観光客を対象に、納経帳や御朱印帳を提示した方に空海や四国遍路をモチーフとしたノベルティを配付するなど、お遍路さんへの「お接待」を行うことで来館を促し、「お遍路さんが立ち寄るミュージアム」としての知名度向上を図る。 (3) 「往にし」に寄る仕掛けづくり - 各文化観光エリアの来訪者にミュージアムにも立ち寄ってもらえるよう、ミュージアムを紹介するツールの配置や共通券の発行などの手法を検討する。 - また、1階「よりどころ」の来訪者が、2・3階の展示室や文化観光エリアを訪れた後、再び戻ってくる流れを作るため、「よりどころ」を始点・終点にした仕掛けづくりを行う。
実施主体	香川県

実施時期	令和7年度～令和10年度
継続見込	計画終了後も、一般財源や観覧料収入等を財源としてサービスの維持及びさらなる魅力向上にも継続的に取り組む。
アウトプット目標	・来館者へのノベルティの提供（令和7年度以降） ・「よりどころ」を始点・終点にした仕掛けづくり（令和7年度以降）
必要資金調達方法	0.4百万円（内訳：0.4百万円（一般財源））

7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業

（事業番号2-①）

事業名	展示解説多言語対応推進事業
事業内容	多言語対応について、日本人による設置者目線での発想ではなく、外国人による受け手側のニーズを的確にくみ取り効果的・効率的に実施するため、県国際課に在籍する国際交流員の協力を得ながら、1-①～⑥や2-②～④の各事業及び館内案内等について、以下の事業を段階的に実施する。「やさしい日本語」や多言語指差しボードの活用を含め、より多くのスタッフが対応できる方法を構築する。 外国語については、まずはコアターゲットである歴史・文化に関心の高い欧米豪からの観光客を対象に、英語対応に優先して取り組み、ニーズに応じて中国語（繁体字・簡体字）、韓国語等に対象を拡大する。 (1) 展示解説等の多言語対応 ・主要な解説については、観光庁の『How to 多言語解説文整備』に沿うとともに、歴史・美術の解説に造詣が深い事業者にてテキスト作成を委託する。解説文の作成に当たっては、ミュージアムの学芸員も内容の吟味に加わる。 ・作成したテキストは1-⑤のデータベースに搭載し館内パネルやスマートフォンを利用した解説等で活用する。 ○常設展示室（歴史展示室・空海室・高松松平家資料コーナー）（キャプション、パネル、解説シート）…英語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語 ○テーマ展（展覧会名）…英語 ○特別展（チラシ、パネル、出品一覧）…英語 (2) スマートフォンを活用した解説ツールの導入 ・外国人がより深く展示を鑑賞し理解を得られるよう、文字や音声による解説が可能な、スマートフォンを活用したツール（ブラウザ型を想定）を導入する。
実施主体	香川県
実施時期	令和6年度～令和10年度
継続見込	計画終了後のシステム管理は一般財源及び観覧料収入等を財源に県で行い、コンテンツを随時追加して各種事業や情報発信に継続的に活用する。
アウトプット目標	・キャプション、パネル、解説シート等の多言語（英語、韓国語、中国語（繁体字・簡体字）等）での提供 ・解説ツールの導入（令和7年度以降）
必要資金調達方法	34.85百万円（内訳：12.63百万円（一般財源） 22.22百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号2-②）

事業名	デジタルコレクション活用事業
事業内容	1-⑤で作成するデジタルコレクションについて、展示解説の素材、オリジナルグッズ開発等に積極的に活用する。 (1) 展示室等での詳細解説資料等としての活用（1-②、1-③、1-④と関連） ・主要な収蔵品はデータベースに詳細な解説を入力しておき、展示室内の解説キャプションと連動させ、展示室で詳細な情報を求める観覧者への解説資料として活

	用する。 ・「高松城下図屏風」や「高松松平家博物図譜」等の描写の細かい収蔵品については、高精細画像を用い、展示に合わせて写真や動画などで細部を紹介したり、講座等で参加者に見せながら資料を解説したりする際に活用する。 (2) 情報発信素材としての活用（５－①、５－②と関連） ・１－⑤(2)で作成するデジタル画像を５－①のさまざまな広報物の作成に用いるほか、５－②で開設するホームページにも掲載するなど、閲覧者の関心を引くコンテンツの造成に活用する。 (3) オリジナルグッズや撮影スポットの素材としての活用（４－①と関連） ・収蔵品のデジタル画像を活用し、ミュージアムショップのオリジナルグッズの開発に取り組むほか、子どもや若い世代がよりミュージアムに親しみやすいよう、フォトジェニックな撮影スポットやオリジナルのARフォトフレーム等を造成し、SNS等での発信を促進する仕掛けづくりを行う。
実施主体	香川県
実施時期	令和７年度～令和１０年度
継続見込	計画終了後のシステム管理は県で行い、コンテンツを随時追加して各種事業や情報発信に継続的に活用する。
アウトプット 目標	・展示室での解説キャプションとの連動（令和７年度以降） ・ARフォトフレーム作成（令和７年度以降）
必要資金 調達方法	1.8百万円（内訳：0.74百万円（一般財源） 1.06百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号２－③)

事業名	文化資源周遊促進事業
事業内容	来館者を深い鑑賞と展示への理解に導き、県内随所に散りばめられた主要コンテンツを中心とした文化資源に対する新たな気づきを与えるため、来館者の周遊を促進する以下の事業を実施する。 (1) 「海に開かれた都市（まち）歩きガイドツアー（仮）」等の造成 ・戦災によりその多くが焼失した城下町「海に開かれた都市（まち）・高松」を、学芸員や専門家による解説を聞きながら、今も残るかつての姿の痕跡をたどるまち歩きガイドツアー等、館外で実施するプログラムを造成する。さらに、県内に点在するモダニズム建築を巡るツアーなど、文化資源の三本柱を中心としたテーマの周遊プログラム造成を検討する。 ・エリアに存在する文化資源の認知度向上に資するとともに、その背景や文化のつながりを体感できるよう、これらの文化資源を巡ることを目的として、スマートフォンを活用したデジタル周遊マップを作成する。県内随所に存在する文化資源も対象とするため、対象地域は、県全域とする。また、関連スポットにマップと連動した仕掛けを施し、周遊性を高めるためのスタンプラリーやARなどのデジタル技術を活用したコンテンツを展開する。 ・ガイドツアーをより深く楽しむためのツールとして、「高松城下図屏風」と現在の地図とを見比べたり重ね合わせたりすることができ、自由に書き込んで自分だけのオリジナルな旅の思い出となるペーパーマップを作成・配布する。 ・二次交通として、レンタサイクル事業を活用する（３－②(5)と関連）。 (2) 着付け体験の充実 ・歴史博物館機能と旧高松城内にある立地を活かし、甲冑や時代装束着付けの体験と隣接する玉藻公園（史跡高松城跡）訪問を組み合わせることで、国内外の旅行者等が体感として楽しみながら日本や香川の歴史文化の理解を深められるようにする。 ・着付け体験自体は、従来から体験学習室で提供しているが、本格的な衣装で着用することによって素材や重量を体験できるものであり、室内のみの利用となっている。

	・新たに軽量の甲冑や時代装束を整備し、玉藻公園と連携することで、着用したまま玉藻公園へ移動して石垣や城の門を背景に写真を撮ったり、歴史上の登場人物になったような気分で園内を散策したりすることが可能となる。 (3) 「館内見どころガイド（仮）」の作成・活用 ・滞在時間の短い観光客でも館内で迷うことなく、展示テーマや展示物などの見どころを楽しみながら巡り、興味を持って展示物を十分に鑑賞できるようなフロアガイドを多言語で作成する。フロアガイドと展示物が一目で照合できるよう番号を付すなど工夫する。 ・あわせて、スタンプラリー、クイズラリーと組み合わせ、1、2、3階を相互に関連させ、館内をじっくり鑑賞し、また、自由に書き込んで自分だけのオリジナルな旅の思い出として持ち帰れるようにする。
実施主体	香川県
実施時期	令和6年度～令和10年度
継続見込	計画終了後も一般財源や観覧料収入等を財源としてさらなる魅力向上に継続的に取り組む。
アウトプット目標	・館外実施プログラムの造成（令和8年度以降、1回／年） ・デジタルマップの作成・活用（令和9年度以降） ・まち歩きマップの作成・活用（令和7年度以降） ・「館内見どころガイド（仮）」の作成・活用（令和9年度以降）
必要資金調達方法	16.13 百万円（内訳：6.06 百万円（一般財源） 10.07 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号2－④)

事業名	体験型コンテンツ充実事業
事業内容	体験を通して来館者が館内展示や香川の歴史・文化に対するより深い理解を得られるよう、以下の事業を実施する。 (1) ワークショップの充実 ・ものづくり体験を通して来館者の香川県の文化芸術に対する理解を深めるため、以下の事業などを検討する。実施に当たっては、県内在住の芸術家やボランティア等へ協力を求める。 ①伝統工芸品制作体験 香川漆芸、讃岐のり染、張子などの伝統工芸品について、工芸家の解説を聞きながら制作するワークショップを実施する。 ②子ども向けワークショップ 親子で参加できる工作ワークショップを実施する。 (2) 食文化体験講座の実施 ・郷土料理を中心とした香川県の食文化に対する来館者の理解を深めるとともに、香川県におけるガストロノミーツーリズムに資するため、解説を聞きながら調理・食事の体験を行う事業を実施する。事業実施に当たっては、ボランティアや地域の保存会等へ協力を求める。 (例) ○郷土料理体験（さぬきうどん、あんもち雑煮等） ○瀬戸内海歴史民俗資料館で紹介している魚料理の実演
実施主体	香川県
実施時期	令和7年度～令和10年度
継続見込	計画終了後も一般財源や観覧料収入等を財源としてさらなる魅力向上に継続的に取り組む。
アウトプット目標	・工作室、実習室を活用したコンテンツの造成（令和7年度以降、1回程度／月）

必要資金 調達方法	6 百万円（内訳：2 百万円（一般財源） 4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。
--------------	---

7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業

（事業番号 3－①）

事業名	観光客受入環境整備事業
事業内容	多様な観光客が交流する文化観光推進拠点施設のゲートウェイとしての機能向上を図れるよう、館内サインやパンフレットの多言語化や、キャッシュレス決済への対応、Wi-Fi 環境の整備等を実施する。 (1) 館内サイン、館内案内パンフレットの多言語化 ・英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語による表示を行うほか、「やさしい日本語」や多言語指差しボードの活用を含め、より多くのスタッフが対応できる方法を構築する。 ・館内案内パンフレットのうち展示解説に係る部分については、2－①で作成するテキストを活用する。 (2) キャッシュレス決済への対応（6－③に計上） ・観覧券売り場及びミュージアムショップにおいて、引き続き、キャッシュレス対応レジを運用する。また、オンラインチケット販売サイトにおける前売り券の販売を検討する。 (3) Wi-Fi 環境の整備（6－③に計上） ・展示解説等の多言語対応や文字・音声による解説ツールの活用、キャッシュレス対応など、来館者がインターネット通信を行う場面が頻繁に生じることから、利便増進のため、全館に Wi-Fi 環境を整備する。 (4) 大型コインロッカーの館外設置（6－③に計上） ・観光客が持ち込む大型荷物は、現状観覧券売場で預かっているが、観光客が自身で管理できるよう、大型コインロッカー等を整備する（閉館後も荷物を取り出せるよう、館外に設置）。
実施主体	香川県
実施時期	令和 6 年度～令和 10 年度
継続見込	計画終了後も一般財源や観覧料収入等を財源としてさらなる魅力向上に継続的に取り組む。
アウトプット 目標	・館内サイン、パンフレットの多言語（英語、韓国語、中国語（繁体字・簡体字）等）での提供（令和 6 年度以降）
必要資金 調達方法	4.57 百万円（内訳：1.52 百万円（一般財源） 3.05 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号 3－②）

事業名	交通アクセス・周遊性向上事業
事業内容	ミュージアムへの交通アクセスを向上するとともに、周辺地域や連携施設との間での周遊性を高められるよう、以下の事業を実施する。 (1) 空港リムジンバスの路線延伸 ・高松空港を利用する観光客が直接来館できるよう、空港リムジンバスの路線を最寄りのバス停まで延伸する。（令和 6 年度：運行準備、令和 7 年度以降：運行） (2) 高松港からのシャトルバスの運行 ・3－③の夜間開館実施期間にあわせて、高松港（フェリー乗り場、高速艇乗り場）とミュージアムとの間でシャトルバスの運行を検討する。 (3) 路線バスのバス停設置等

	・市内を運行する既存路線のバス（JR 高松駅、琴電高松築港駅、高松市美術館近辺経由）について、新たに最寄りのバス停の設置を検討する。 ・既存のバス停の名称を変更するなど、ミュージアムの最寄りのバス停としての認知度向上を図る。 (4) 連携施設間の乗合タクシー運行 ・特別展等で連携展示を行う各施設との間での移動の利便増進のため、連携展示実施期間中、乗合タクシーを運行する。（令和 7 年度以降） (5) レンタサイクルの活用 ・高松市が実施しているレンタサイクル事業※を活用し、JR 高松駅や高松港との間の移動や、周辺地域の周遊を促進する。具体的には、既存のレンタサイクルポートに 2-③で作成するデジタルマップの利用案内を配置したり、ミュージアム 1 階ゲートウェイ「行きし・いにしのよりどころ」においてレンタサイクルポート案内図を設置したりする。将来的には、ミュージアムでのレンタサイクルポートの設置も検討する。 ※ 北は JR 高松駅、南は琴電栗林公園駅まで、計 7 か所にレンタサイクルポートを設置しており、事業エリアは本計画における「海に開かれた都市（まち）・高松エリア」と概ね重なっている。
実施主体	香川県、ことでんバス株式会社、大川自動車株式会社、高松タクシー協会
実施時期	令和 6 年度～令和 10 年度
継続見込	計画終了後も一般財源や観覧料収入等を財源として継続的な実施に取り組む。
アウトプット 目標	・リムジンバスの路線延伸（令和 6 年度：事前準備、令和 7 年度以降：運行） ・路線バスのバス停設置（令和 7 年度以降） ・シャトルバス・乗合タクシーの運行（令和 7 年度以降）
必要資金 調達方法	15.4 百万円（内訳：5.12 百万円（一般財源） 10.28 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号 3-③）

事業名	ナイトタイムエコノミー活性化事業
事業内容	公益社団法人香川県観光協会や近隣ホテル、商店街その他の周辺施設と連携し、ナイトタイムエコノミー活性化への取り組みや実施体制構築を調整のうえ、ミュージアムの夜間開館及びミュージアムカフェの夜間営業、館周辺・エントランスの演出照明の造成などを行い、地域活性化へ結びつける。 (1) 夜間開館 ・史跡高松城跡・玉藻公園に隣接し、サンポート高松地区から徒歩圏内にあるロケーションを活用し、玉藻公園、栗林公園のライトアップイベントや、瀬戸内国際芸術祭、サンポート高松地区の夏季夜間イベント等の地域イベントに合わせ、観覧時間の延長や館周辺・エントランスの演出照明の造成（6-①に計上）を行う。 (2) 夜間限定プログラムの開催 ・一般の閉館後、夜間限定の特別な館内ツアーを企画する。また、学芸員や講師の解説を聞きながら地ビールなどの立ち飲みができるショットバーや、ピアノを活用したコンサート、座談会などの「オトナなコンテンツ」の創出を検討する。好評を得たプログラムについては、定期的実施する。 ・これらのイベントの開催に当たっては、宿泊とのセットプラン造成などにより、夜間の滞在時間延伸を図る。
実施主体	香川県、公益社団法人香川県観光協会
実施時期	令和 7 年度～令和 10 年度
継続見込	計画終了後も一般財源や観覧料収入等を財源として継続的な実施に取り組む。
アウトプット 目標	・夜間開館の実施 ・夜間限定イベントの実施（令和 7 年度以降、1 回程度／年）

必要資金 調達方法	6百万円（内訳：2百万円（一般財源） 4百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。
--------------	---

7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業

（事業番号 4－①）

事業名	ミュージアムオリジナル商品開発・販売促進事業
事業内容	収蔵品を題材としたグッズは、鑑賞体験を記憶するメモリーツールであり、観覧者と非観覧者との会話の糸口になるコミュニケーションツールである。こうした機能を果たすためのミュージアムの収蔵品を素材としたオリジナル商品の開発・販売を促進するため、以下の事業を実施する。あわせて、引き続き、キャッシュレス対応レジを運用する（3－①と関連。6－③に計上）。 (1) ミュージアムショップ空間の見直し（1－①と関連） ミュージアムショップのレイアウトやディスプレイの見直しなど、ゲートウェイ空間の中で一体的にグッズ購入を楽しめるような販売環境の高度化を図り、グッズ購入に係る魅力を高める。 (2) 商品開発等 ・お土産として手に取りやすいオリジナルの菓子類や、文化資源の特色を活かした観光客に訴求力のあるグッズを、一般財団法人かがわ県産品振興機構等と連携して開発する。 ・また、香川漆芸など高価格帯の工芸品を販売するほか、県内在住の若手作家への活動支援の一環として、関連グッズ等の販売の機会を提供する。 ・あわせて、鑑賞体験の思い出の品として手軽に手に入る、コレクションをモチーフにしたカプセルトイの導入を検討する。 ・購入機会の拡充を図るため、オンラインショップでの販売も検討する。
実施主体	香川県、一般財団法人かがわ県産品振興機構
実施時期	令和8年度～令和10年度
継続見込	計画終了後も一般財源や販売収入等を財源として継続的な実施に取り組む。
アウトプット 目標	・ミュージアムショップの空間の見直し（令和8年度） ・オリジナルグッズの開発（令和9年度以降、2種類程度／年）
必要資金 調達方法	5.3百万円（内訳：5.3百万円（ミュージアムショップ売上収入及び一般財源））

（事業番号 4－②）

事業名	ミュージアムカフェ魅力向上事業
事業内容	香川県の食文化を体感する機会を提供し、滞在の満足度を向上させるため、以下の事業によりミュージアムカフェ「Café-Pot Musée（ミュゼ）」の魅力向上を図る。 (1) 来館の契機となるカフェづくり ミュージアムカフェにおいて、香川らしさやアートを感じさせる香川漆器などの食器類を用い、展覧会の内容に応じた特別メニューやオリジナルメニューを提供する。特に、ジオ・ガストロノミーの観点から香川の歴史・文化に親しめるよう、郷土料理や地産地消を図るメニューを開発するなど、「香川らしさ」を満喫できるようなカフェづくりに取り組み、カフェをきっかけとして来館する観光客等の増加をねらう。 (2) カフェ機能の拡張（1－①と関連） ゲートウェイ空間の中で飲食を一体的に楽しめるよう、1－①で造成する飲食可能エリアにおいて、ドリンクや菓子類などの提供を行う。 また、周辺地域で開催するイベントやキッチンカーとの連携を図る。
実施主体	香川県
実施時期	令和7年度～令和10年度
継続見込	計画終了後も一般財源や観覧料収入等を財源として継続的な実施に取り組む。

アウトプット 目標	・カフェ機能の拡張（令和7年度以降）
必要資金 調達方法	0.6百万円（内訳：0.2百万円（一般財源） 0.4百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業

（事業番号5-①）

事業名	認知度向上のための広報強化事業
事業内容	ミュージアムの認知度を向上させ、より多くの観光客の来館のインセンティブを高めるため、以下の事業により広報を強化する。 (1) 広報力強化に向けた広報体制の確立 ミュージアムの広報力を強化するため、美術館、博物館の広報に長けた人材の確保や、職員の育成、専門家との連携等により広報体制を確立する。 (2) 広報手段の拡充 ・観光客がさまざまな場面でミュージアムの存在を認知するよう、主要交通拠点、商店街等の周辺施設へポスター・チラシ等を掲示・配置する。 ・その他、情報発信の専門家の助言を得ながら、デジタルサイネージの設置やWEB・SNS 広告の展開等も検討する。 (3) 観光 DMO と連携した PR ・県外からの観光客やコアターゲットである欧米豪からの観光客の確保に向け、国内外への旅行会社への情報提供等を行うなど、公益社団法人香川県観光協会等の観光 DMO と連携したプロモーションを行う。 ・来県外国人観光客の上位を占める、高松空港からの直行国際便が運航している韓国、香港、台湾、中国においてもプロモーションを行う。
実施主体	香川県、公益社団法人香川県観光協会、高松中央商店街振興組合連合会
実施時期	令和6年度～令和10年度
継続見込	計画終了後も一般財源や観覧料収入等を財源として継続的な実施に取り組む。
アウトプット 目標	・各所へのポスター、チラシ等の設置 ・海外へのPR情報の提供
必要資金 調達方法	22.67百万円（内訳：7.57百万円（一般財源） 15.1百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号5-②）

事業名	観光客に訴求力のある公式ホームページ開設事業
事業内容	現在ミュージアムの情報を公開している香川県ホームページは、その仕様上、動画や写真の表示などに制約があり、ミュージアムの魅力を十分伝えきれていない。観光客に対して訴求力のあるウェブサイトとするため、新規の公式ホームページを作成・公開するとともに、ウェブサイト上でもミュージアムを楽しめるようなコンテンツを造成する。 分かりやすく、かつ、閲覧者が視覚的に楽しめるようなレイアウトを検討するとともに、1-⑤のデジタル・アーカイブなどのコンテンツやオンラインチケット販売の付加を検討する。
実施主体	香川県
実施時期	令和6年度～令和10年度
継続見込	計画終了後も一般財源や観覧料収入等を財源として継続的な実施に取り組む。
アウトプット 目標	・外部サイトの開設・運用（令和7年度以降）

必要資金 調達方法	13 百万円（内訳：8.33 百万円（一般財源） 4.67 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。
--------------	--

7-1-6. 7-1-1～7-1-5 の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

（事業番号 6－①）

事業名	ゲートウェイ機能付加のための整備事業
事業内容	1－①、1－⑥に関連し、ミュージアム 1 階がゲートウェイとして機能するのにふさわしい空間を創出するため、フロアレイアウトの改修やタッチ機能付きデジタルサイネージの導入、「よりどころ」利用者把握のためのセンサー等設置などの整備を行う。 3－③に関連し、夜間の魅力向上のため、館周辺・エントランスの演出照明の造成を行う。
実施主体	香川県
実施時期	令和 7 年度～令和 10 年度
継続見込	計画終了後も一般財源や観覧料収入等を財源として継続的な実施に取り組む。
アウトプット 目標	・フロアレイアウト改修（令和 9 年度） ・タッチ機能付きデジタルサイネージの導入・運用（令和 8 年度以降） ・案内サイン、建物サインの作成・設置（令和 8・9 年度） ・館周辺・エントランスの演出照明の造成・運用（令和 7 年度以降）
必要資金 調達方法	55.45 百万円（内訳：18.49 百万円（一般財源） 36.96 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号 6－②）

事業名	展示環境改善のための整備事業
事業内容	1－②、1－③、1－⑤に関連し、主要コンテンツを中心とした収蔵品の柱となる展示物をより魅力的な環境で展示するため、以下の事業を実施することで、展示環境を高度化して来館者の作品鑑賞環境を向上させるとともに、デジタルコレクションを充実させるための整備を行う。 ・歴史展示室改修（展示配置替（1－②）に伴う改修、モニター整備、クロス貼替え等） ・2階展示室改修（照明 LED 化等） ・可動展示ケース改修（照明 LED 化） ・NAS 増設 ※ LED 化については、作品や資料の劣化を防ぎながら、展示物の素材や展示コンセプトにより適した演出が可能となる。
実施主体	香川県
実施時期	令和 6 年度～令和 10 年度
継続見込	計画終了後も一般財源や観覧料収入等を財源として継続的な実施に取り組む。
アウトプット 目標	・歴史展示室改修（令和 8～10 年度） ・2階展示室改修（令和 7～9 年度） ・可動展示ケース改修（令和 6 年度） ・NAS 増設（令和 7 年度）
必要資金 調達方法	109.46 百万円（内訳：36.5 百万円（一般財源） 72.96 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 6－③)

事業名	観光客受入環境整備のための整備事業
事業内容	3－①、3－②、4－①に関連し、全館でのインターネット接続対応のための無料 Wi-Fi 機能システムの設置やキャッシュレス対応レジの運用、大型コインロッカーの館外設置、空港リムジンバスの路線延伸のために必要な施設・設備の整備を行い、観光客の受入環境を向上させる。
実施主体	香川県
実施時期	令和 6 年度～令和 10 年度
継続見込	計画終了後も一般財源や観覧料収入等を財源として継続的な実施に取り組む。
アウトプット 目標	・全館対応する無料 Wi-Fi 機能システムの設置・運用（令和 6 年度以降） ・キャッシュレス対応レジ運用 ・大型コインロッカー設置（令和 7 年度以降） ・空港リムジンバスの路線延伸に伴うバスベイ設置（令和 7 年度以降）
必要資金 調達方法	16.16 百万円（内訳：6.71 百万円（一般財源） 9.45 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-2. 特別の措置に関する事項

7-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第 条（ 法の特例）
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

7-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
令和6年度	41.73 百万円	事業番号1－①	2.8 百万円	0.93 百万円（一般財源） 1.87 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1－⑤	2.89 百万円	0.96 百万円（一般財源） 1.93 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号2－①	5.27 百万円	1.76 百万円（一般財源） 3.51 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号3－①	4.57 百万円	1.52 百万円（一般財源） 3.05 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号3－②	1.8 百万円	0.6 百万円（一般財源） 1.2 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号5－①	2.67 百万円	0.89 百万円（一般財源） 1.78 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号6－②	17.91 百万円	5.97 百万円（一般財源） 11.94 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号6－③	3.82 百万円	1.5 百万円（一般財源） 2.32 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
令和7年度	73.54 百万円	事業番号1－①	0.25 百万円	0.08 百万円（一般財源） 0.17 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1－③	4 百万円	1.33 百万円（観覧料） 2.67 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1－④	5 百万円	1.67 百万円（観覧料） 3.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1－⑤	5.5 百万円	1.83 百万円（一般財源） 3.67 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1－⑥	0.1 百万円	0.1 百万円（一般財源）
		事業番号2－①	5.27 百万円	1.76 百万円（一般財源） 3.51 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号2－②	0.6 百万円	0.23 百万円（一般財源） 0.37 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号2－③	1.76 百万円	0.59 百万円（一般財源） 1.17 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号2－④	1.5 百万円	0.5 百万円（一般財源） 1 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号3－②	3.4 百万円	1.13 百万円（一般財源） 2.27 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号3－③	1.5 百万円	0.5 百万円（一般財源） 1 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号4－②	0.15 百万円	0.05 百万円（一般財源） 0.1 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号5－①	5 百万円	1.67 百万円（一般財源） 3.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号5－②	8.5 百万円	3.83 百万円（一般財源） 4.67 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号6－①	2.3 百万円	0.77 百万円（一般財源） 1.53 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号6－②	25.85 百万円	8.62 百万円（一般財源） 17.23 万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号6－③	2.86 百万円	1.23 百万円（一般財源） 1.63 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
令和8年度	118.48 百万円	事業番号1－①	1.15 百万円	0.38 百万円（一般財源） 0.77 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1－②	11 百万円	3.67 百万円（観覧料） 7.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1－③	4 百万円	1.33 百万円（観覧料） 2.67 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1－④	5 百万円	1.67 百万円（観覧料） 3.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1－⑤	11 百万円	4 百万円（一般財源） 7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

		事業番号 1－⑥	0.1 百万円	0.1 百万円（一般財源）	
		事業番号 2－①	9.77 百万円	3.59 百万円（一般財源）	6.18 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 2－②	0.4 百万円	0.17 百万円（一般財源）	0.23 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 2－③	1.8 百万円	0.6 百万円（一般財源）	1.2 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 2－④	1.5 百万円	0.5 百万円（一般財源）	1 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 3－②	3.4 百万円	1.13 百万円（一般財源）	2.27 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 3－③	1.5 百万円	0.5 百万円（一般財源）	1 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 4－①	3.3 百万円	3.3 百万円（ミュージアムショップ売上収入及び一般財源）	
		事業番号 4－②	0.15 百万円	0.05 百万円（一般財源）	0.1 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 5－①	5 百万円	1.67 百万円（一般財源）	3.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 5－②	1.5 百万円	1.5 百万円（一般財源）	
		事業番号 6－①	32.15 百万円	10.72 百万円（一般財源）	21.43 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 6－②	22.7 百万円	7.57 百万円（一般財源）	15.13 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 6－③	3.06 百万円	1.29 百万円（一般財源）	1.77 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
令和 9 年度	108.68 百万円	事業番号 1－①	1.15 百万円	0.38 百万円（一般財源）	0.77 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 1－②	1 百万円	0.33 百万円（観覧料）	0.67 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 1－④	5 百万円	1.67 百万円（観覧料）	3.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 1－⑤	6 百万円	2.33 百万円（一般財源）	3.67 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 1－⑥	0.1 百万円	0.1 百万円（一般財源）	
		事業番号 2－①	7.27 百万円	2.76 百万円（一般財源）	4.51 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 2－②	0.4 百万円	0.17 百万円（一般財源）	0.23 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 2－③	10.5 百万円	3.84 百万円（一般財源）	6.66 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 2－④	1.5 百万円	0.5 百万円（一般財源）	1 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 3－②	3.4 百万円	1.13 百万円（一般財源）	2.27 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 3－③	1.5 百万円	0.5 百万円（一般財源）	1 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 4－①	1 百万円	1 百万円（ミュージアムショップ売上収入及び一般財源）	
		事業番号 4－②	0.15 百万円	0.05 百万円（一般財源）	0.1 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 5－①	5 百万円	1.67 百万円（一般財源）	3.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 5－②	1.5 百万円	1.5 百万円（一般財源）	
		事業番号 6－①	20 百万円	6.67 百万円（一般財源）	13.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 6－②	42.5 百万円	14.17 百万円（一般財源）	28.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 6－③	0.71 百万円	0.51 百万円（一般財源）	0.2 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
令和 10 年度	44.25 百万円	事業番号 1－①	1.15 百万円	0.38 百万円（一般財源）	0.77 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号 1－②	1 百万円	0.33 百万円（観覧料）	0.67 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

		事業番号1－④	5 百万円	1.67 百万円（観覧料）	3.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1－⑤	6 百万円	2.33 百万円（一般財源）	3.67 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1－⑥	0.1 百万円	0.1 百万円（一般財源）	
		事業番号2－①	7.27 百万円	2.76 百万円（一般財源）	4.51 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号2－②	0.4 百万円	0.17 百万円（一般財源）	0.23 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号2－③	2.07 百万円	1.03 百万円（一般財源）	1.04 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号2－④	1.5 百万円	0.5 百万円（一般財源）	1 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号3－②	3.4 百万円	1.13 百万円（一般財源）	2.27 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号3－③	1.5 百万円	0.5 百万円（一般財源）	1 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号4－①	1 百万円	1 百万円（ミュージアムショップ売上収入及び一般財源）	
		事業番号4－②	0.15 百万円	0.05 百万円（一般財源）	0.1 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号5－①	5 百万円	1.67 百万円（一般財源）	3.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号5－②	1.5 百万円	1.5 百万円（一般財源）	
		事業番号6－①	1 百万円	0.33 百万円（一般財源）	0.67 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号6－②	0.5 百万円	0.17 百万円（一般財源）	0.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号6－③	5.71 百万円	2.18 百万円（一般財源）	3.53 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
合計	386.68 百万円				

※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

8. 計画期間

令和6年度：計画策定、事業本格着手

令和7年度：計画事業実施、ブラッシュアップ

令和8年度：計画事業実施、ブラッシュアップ、中間評価

令和9年度：計画事業実施、中間評価を反映したブラッシュアップ

令和10年度：事業実施最終年度、計画事業実施、最終評価、令和11年度以降の継続体制確立